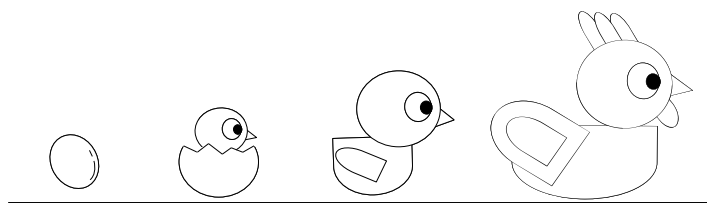


発達支援のための
チャレンジブック！

発達の気になる園児への対応に困ったら、このページを開いてください。

そこから、子ども一人ひとりに合わせた支援を発見するためのチャレンジの始まりです。



大阪樟蔭女子大学

田中 善大

はじめに

“発達支援のためのチャレンジブック”は、神戸市の保育士の方を対象に 2007 年度から始まった「発達支援リーダー養成研修」がもとになっています。全 4 回という長期の研修にもかかわらず、開始から現在までに 100 名近くの先生方に参加していただきました。

研修では、発達の気になる園児の支援を考えるための枠組みとして「行動の ABC(ABC 分析)」について学びます。行動の ABC(ABC 分析)は、園児の行動(Behavior)とその前の状況(Antecedent)と後の状況(Consequence)の頭文字をとったものです。研修に参加した先生は、研修を通して、気になる園児についてこの ABC の観察を行い、それをもとに話し合いを行って支援を考えます。これまでの研修では、一人ひとりの子どもに合ったさまざまな支援方法のアイデアが生まれてきました。支援の振り返りでは、支援を実践した結果、子どものできるが増えた、困った行動が減った等のうれしい報告をたくさん聞くことができました。

この研修では、子どもへの「支援方法」はもちろんですが、それ以上に支援方法を考えるための「子どもの行動の見方・捉え方」を身につけていただくことに焦点を当ててきました。発達の気になる園児への支援においては、一人の子に対して効果的だった支援が、必ずしも別の子に有効であるとは限りません。有効だった支援が別の子に対しては、うまくいかない場合には、全く別の支援を行う必要があるかもしれませんし、その子に合わせて少し修正するだけでうまくいくかもしれません。万能の支援はないので、一人ひとりのお子さんに合わせて、新しい支援を考えたり、これまでの支援を修正したりすることが必要なのです。









チャレンジブックでは、一人ひとりの子どもに合った支援を考え、実践していくための方法についてご紹介します。それが、次から始まる 4 つのチャレンジです。これまでの研修の内容をギュッとまとめてこの 4 つのチャレンジを作りました。各チャレンジを実践していただくことで、研修に参加していただいた先生方と同じように、目の前のお子さんに合った効果的な支援のヒントが見えてくることでしょう。

最後に、チャレンジブックの使い方について説明します。本書は、前から「チャレンジ編」、「解説編」、「様式シート編」、「事例編」、「工夫紹介」と続いていきます。チャレンジ編は、実際に 4 つのチャレンジを行うための手順が書いてあり、解説編はその解説になります。様式編にはチャレンジを行う際に用いる各種のシートを載せてありますので、コピーして使ってください。事例編、工夫紹介は、これまでの研修の中での実際の取り組みを紹介したものになります。チャレンジブックは、どこから読み始めてもらってもかまいません。気になる園児の支援を考えるために、チャレンジ編を読みながらチャレンジを始めてもらってもいいですし、まずは事例編、工夫紹介を見て、これまでの先生がどんな支援をしてきたのか、どんな風にチャレンジを進めていったのかを見るのもいいです。もちろんチャレンジ編から順に読んでいただくのもいいです。チャレンジは、前から順に本書のすべてを読まないとはじめられないというものではありません。それよりもむしろ、本書を読みながらチャレンジを進め、チャレンジを進めながらまた本書を読むというように使っていただくのが効果的かもしれません（もちろん全部読んでから始めたいという方はそれも OK です）。

ここまで読み進めていただいた先生は、もうすでに一步踏み出されました。一人ひとりの子どもに合った支援を見つけるチャレンジが始まったのです。好きなページを開いて、どんどん進んでいきましょう。Let's チャレンジ！

大阪樟蔭女子大学児童教育学部児童教育学科准教授
田中善大

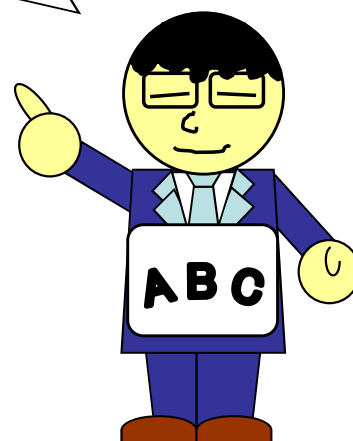
目次

チャレンジ編	・・・	P. 3	
 チャレンジ 1	: 取り組む行動を決める!	・・・	P. 4
 チャレンジ 2	: 行動のABCを観察し、記録する!	・・・	P. 6
 チャレンジ 3	: 記録をもとに支援を考える!	・・・	P. 8
 チャレンジ 4	: 支援を実施し、支援を振り返る!	・・・	P. 10
解説編	・・・	P. 11	
 チャレンジ 1	【ポイント1-1】: 行動を分類する	・・・	P. 12
	【ポイント1-2】: 行動を具体的にする	・・・	P. 13
 チャレンジ 2	【ポイント2-1】: 行動の原理を知る	・・・	P. 14
	【ポイント2-2】: “いいこと” は子どもによって違う		P. 16
 チャレンジ 3	【ポイント3-1～5】: 支援を考える上でのポイント		P. 17
 チャレンジ 4	【ポイント4-1】: 記録を使って支援の効果を調べる		P. 32
様式シート編	・・・	P. 36	
	事例検討シート、ABC分析シート、課題分析シート、 行動の記録シート、支援シート		
事例編	事例1～事例6	・・・	P. 42
工夫紹介	工夫1～工夫11	・・・	P. 55

チャレンジ編

「気になるな」「困ったな」と感じる園児の行動に対して、どう対応していいかわからない、支援のアイデアが浮かばない等で悩まれたら、まずはこのページを開いてください。

4つのチャレンジを1つずつ行うことによって、目の前のお子さん一人ひとりに合わせた支援を見つけることができます。



取り組む行動を決める！

- 「事例検討シート」に対象児の状況を記入して、取り組む行動を決めましょう -

☆ まずは、現在の対象児の様子を「事例検討シート (P. 36)」に書き出して、整理しましょう。頭で考えていると漠然として整理しにくいことも、書き出すと意外にスッキリすることは多いです。難しく考えずに、思いつくことから書いてみましょう。

事例検討シート

1. 対象児について記入してください。

性別 / 年齢 / クラス (男 ・ 女) / (才 ヶ月) / (歳児クラス)

2. 対象児について、保育園での気になる行動または困っている行動を具体的に記入してください。

- ・ ○○○しないこと
- ・ △△△すること
- ・ □□□すること

①：困った行動を書き出す

どんな行動が対応に困ったり、気になっていませんか？

⇒ 事例検討シートに、対象児の困った行動、気になる行動を書き出してみましょう。

* 記入した行動の中から、今回取り組む行動を1つ選んで丸をつけてください。

3. 対象児について、保育園で期待される（大半の園児ができてい）行動のうち、できているもの（支援付きを含む）があれば具体的に記入してください。

- ・ ○○○ができる
- ・ ☆☆☆ができる
- ・ ▼▼▼ができるときがある

②：できている行動を書き出す

保育園で期待される（大半の園児ができてい）行動のうち、対象児ができていることは何ですか？

⇒ 事例検討シートに、対象児のできている行動（支援付きを含む）を書き出してみましょう。

③：取り組む行動を決める

まずはじめにどんな行動に取り組みますか？

⇒ ①で、事例検討シートに書いた行動の中から1つ選びます。

【次のページに実際に取り組んだ行動を紹介しています】

研修で取り組んだ行動

- ・何でも一番でないと泣いてできなくなる（事例1）
- ・部屋から飛び出し、園庭や他の部屋へ行く（事例2）
- ・一日に何度も暴言（バカ、ジジイ、ボケなど）を言う（事例3）
- ・日常の生活の流れの中で、イレギュラーな活動が入ったり、突発的な出来事が起こったときに動揺し、活動が止まってしまう（事例4）
- ・すぐに暴力をふるってしまう（叩く、蹴る、物を投げるなど）（事例5）
- ・身の回りのことが集中してできない（事例6）
- ・ロッカーの上に登る、棚の上に登る（工夫1、工夫2）
- ・部屋から出てベランダからおもちゃを投げる（工夫3）
- ・友達とかかわって遊ぶ（工夫4）
- ・「キー」と大声を出し、大泣きする（工夫7）
- ・してはいけないときに、水道で遊ぶ（工夫11）





行動のABCを観察し、記録する！

- 対象児を観察して、「ABC分析シート」に記入しましょう -

☆ 取り組む行動が決まったら、次にその行動が起こる（起こらない）場面の観察を行います。観察したことをA（行動の前の状況）、B（行動）、C（行動の後の状況）の3つの枠組み（「ABC分析シート（P. 37・38）」）で整理するといろいろな支援のヒントが見えてきます。ここでは、4つのチャレンジの中心となる「ABC分析シート」の書き方・使い方をご紹介します。

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[朝・部屋・自由遊び] S先生：Mくんに「おはよう」と言う。	「おはよう」	S先生：「元気ないあいさつやね」
[朝・部屋・自由遊び] T先生：Mくんから離れたところで、他の園児と話をしている。 " ←	机の上に登り、大きな声で「あー」と言う。 机から降りる。	T先生：Mくんの側に行き、「降りなさい」と言う。 T先生：「ちゃんと降りれて、えらいね」
[時間帯・場所・クラスの活動] △くん：～する。 ○先生：～する。	～する	○先生：～する △くん：～する

《ABC分析シートの書き方・使い方》

1

取り組む行動を観察・メモする

『チャレンジ1』で決めた取り組む行動の観察を行います。観察した内容を後でABC分析シートにまとめるために、ここでは、簡単なメモを取ることをお勧めします。

メモには、対象児の行動だけでなく、その行動の直前にあったこと（先生の指示、周りの園児のかわりなど）と、行動の直後にあったこと（先生の対応、周りの園児の反応など）も書きます。

*もし、取り組む行動が『減らしたい行動』なら…

取り組む行動が、友達を叩く、お部屋を飛び出す等の『減らしたい行動』の場合は、その行動が起こった「×」の場面に加えて、その行動が起こらなかった「○」の場面も合わせてメモしておいてください。いつもなら困った行動（減らしたい行動）をしそうなときに困った行動をしなかった場面（「いつもなら叩きそうな場面で叩かなかった」「この課題のときはいつも飛び出すのに今日は飛び出さなかった」など）にもたくさんの支援のヒントが隠れています。

*もし、取り組む行動が『増やしたい行動』なら…

取り組む行動が、全体指示で動く、片付けをする等の『増やしたい行動』の場合は、その行動が起こらなかった「×」の場面に加えて、その行動が起こった「○」の場面も合わせてメモしておいてください。「×」の場面と「○」の場面のA（行動の前）とC（行動の後）を比べることによって、その子に合った支援が見えてきます。

2

メモをもとにABC分析シートに記録をまとめる (事例編も参考にしてください)

観察・メモを行ったら、いよいよABC分析シートに記録をまとめていきます。何度も書いていくと書きやすい方法が見つかってきますが、ここでははじめての方にお勧めの書き方をご紹介します。

○まずは、対象児の行動を **B** の欄に書きます。

Bの欄には、対象児の行動のみ書きます。先生や他の園児の行動は、AとCに書きます。また、対象児の行動はすべてBに書くので、AやCに対象児の行動は書きません。対象児の行動を書くときに、否定と受け身に注意してください。

〔否定〕 指示で動かない、片付けをしないなど「～しない」という表現を使う場合は、それをせずに対象児が何をしているのかまで書いてください。片付けをせずに、別のおもちゃで遊んでいるのか、それともお部屋の中をうろうろ歩いているのかまで記録してください。

〔受け身〕 友達に叩かれた、先生に注意されたなど「～された」という表現は、対象児の行動ではなく、周りの人の行動になりますので、AやCの欄に書いてください。Bの欄には、叩かれたときの対象児の行動(泣いたなど)や叩かれる前の対象児の行動(友達のおもちゃをとったなど)を書いてください。

○次に、対象児の行動が起こった直後の様子を **C** の欄に書きます。

対象児の行動が起こった後どんなことがあったかをC(行動の後)の欄に記入します。対象児が友達を叩いてしまったとき、友達はどんな反応をしましたか？先生は叩いたことに対してどんな対応をしましたか？行動の直後にあったことを具体的にCの欄に書いてください。

○最後に、対象児の行動が起こる直前の様子を **A** の欄に書きます。

対象児の行動と直後の状況を書いたら最後に、対象児がその行動を行う直前の状況をA(行動の前)の欄に書きましょう。対象児が友達を叩く前に、その友達は何をしていましたか？先生はどんな指示をしていましたか？行動の直前にあったことを具体的にAの欄に書いてください。また、そのときの状況(時間帯、場所、クラスの活動等)も合わせてAの欄に記入してください。

A と C の書き方のポイント

【人物ごとに書く】

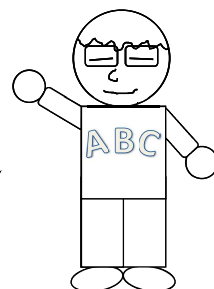
AとCを書くときは、長い文章で書かずに、登場人物ごとに箇条書き(「D先生が〇した」「友達のEくんが〇した」など)で書いてください。また、AとCの欄には、対象児の行動を書かないようにします(対象児の行動はすべてBの欄に書いてください)。

【ABCを続けて書く】

ABCが続くときは、下の段に書いて、矢印を使ってそれをつなげて順序を示してください。

「ABC分析シート」を書いていると、観察できていなかったり、忘れてしまっていることに気づくことがあります(園児が行動する前に何があったかな？行動した後どんな風に対応したかな？など)。観察できていないことに気づいたら、そこが次からの観察のポイントになります。

ABC分析シートで、「観察できていない」ポイントに気づいたら、それも支援に近づく大きな一歩です。





記録をもとに支援を考える！

- ABC分析シートの記録を見ながらたくさんのアイデアを出しましょう -

- ☆ ABC分析シートに記録を行ったら、いよいよ支援方法を考えます。
ここでは、ABCの記録を使って、支援を考える際の手順とポイントをご紹介します。

👉①記録を選ぶ

- ・取り組む行動が起こった（起こらなかった）場面のABCの記録を1～3つ選びます。
「いつも〇〇のときに～してしまう」といった、よくある場面のABCの記録を選ぶようにしましょう。

👉②理由を考える（話し合う）

- ・ABCの記録を選んだら、次に、どうしてその行動が起こったのか（起こらなかったのか）を考えます。どうして対象児は、その行動をしたのか（しなかったのか）をA（行動の前）やC（行動の後）を見ながら考えます。
- ・考えるときのポイントは、記録を見ながらできるだけたくさんの理由を考えることです。1つの正解を探すよりも、まずは、いろいろな可能性を考えます。考えたものは、どんどん書きとめていきましょう。

👉③支援を考える（話し合う）

- ・理由を考えたら、その場面でしてほしかった行動（増やしたい行動）を考えます。困った行動の代わりにしてほしい行動を考えて、同じような場面で、その行動が起こりやすくなるような支援、その行動を増やす支援を考えます。困った行動が起こってからの対応ではなくて、困った行動が起こる前の支援（予防的な支援）を考えましょう。

「もし同じ場面があったとしたら、困った行動が起こる前にどんな支援（かかわり、環境設定など）ができると思いますか？」

「もし困った行動が起こる前に時間を戻せるとしたら、どこまで戻して、何をしますか？」

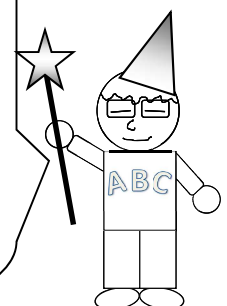
ここは、魔法の保育所です！

- ◎ 支援方法を考えるときは、できるだけたくさんのアイデアを考えましょう。実現できるかどうかよりもまずは、頭を柔らかくして、たくさんアイデアを出してください。

※ 「ここは、魔法の保育所で、人、物、場所、時間…自由に使えます。
さあ、みなさんならどんな支援をしますか」

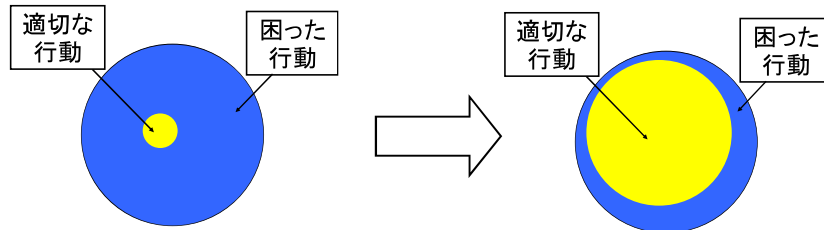
- ◎ 出てきたアイデアは、とにかく書きとめていきます。
たくさんアイデアを書きとめたら、そこから実際に行いたいものを選んで、より現実的な支援にしましょう！

※ 無理は禁物です。しっかり、続けられる支援を考えましょう。



支援を考える際のポイント

「困った行動（×）を減らすために何ができるか？」と考えるよりも、「適切な行動やできる行動（○）を増やすために何ができるか？」という視点で支援を考えることが、支援を考える際の大きなポイントになります。
適切な行動が増える（○）と、困った行動（×）も徐々に減っていくのです。



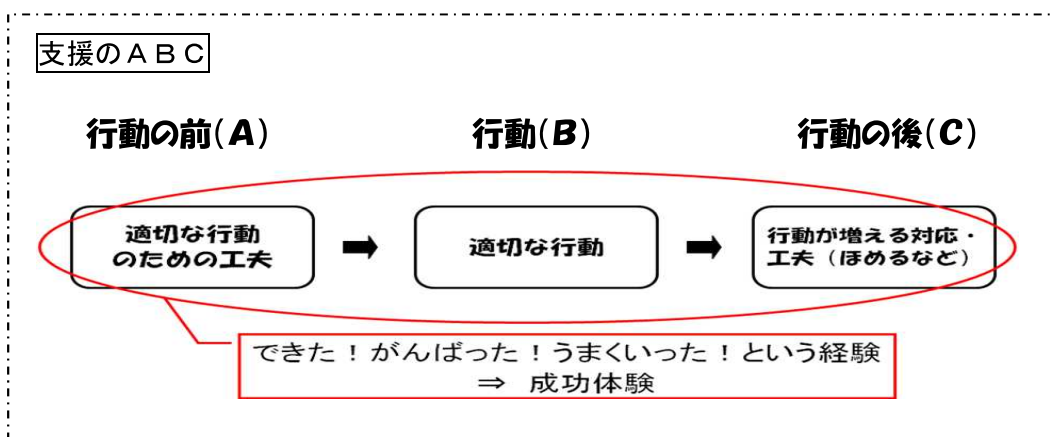
予防的な支援：『○』を増やす支援が大切！！

“困った行動が起こったときにどうしたらいいか？（事後的な支援：「×」への対応）”よりも、“困った行動が起こる前にどうしたらいいか？代わりにしてほしい行動が起こるように何ができるか？”という視点で支援を考えましょう。

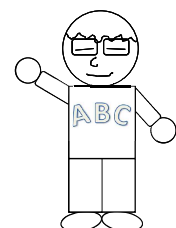
支援の目標

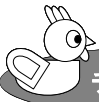
先生方の多くは、園児に「できた！がんばった！うまくいった！」という経験をたくさんしてほしい、その中でいろいろなことを身につけ、学んでほしいと考えているのではないのでしょうか。

園児に合わせた支援を実践し、成功体験を増やす中で、子どもの「できる」を増やしていくことこそ、私たちの支援が目指す目標になります。この目標をABCで表したものが下の図になります（「支援のABC」）。



園児のできた！がんばった！うまくいった！という経験(成功体験)につながる“支援のABC”をどんどん増やし、その中で園児の「できる行動・適切な行動（○）」を増やしていきましょう！





支援を実施し、支援を振り返る！

- 支援中のABCの記録をつけて、記録を見ながら支援を振り返りましょう -

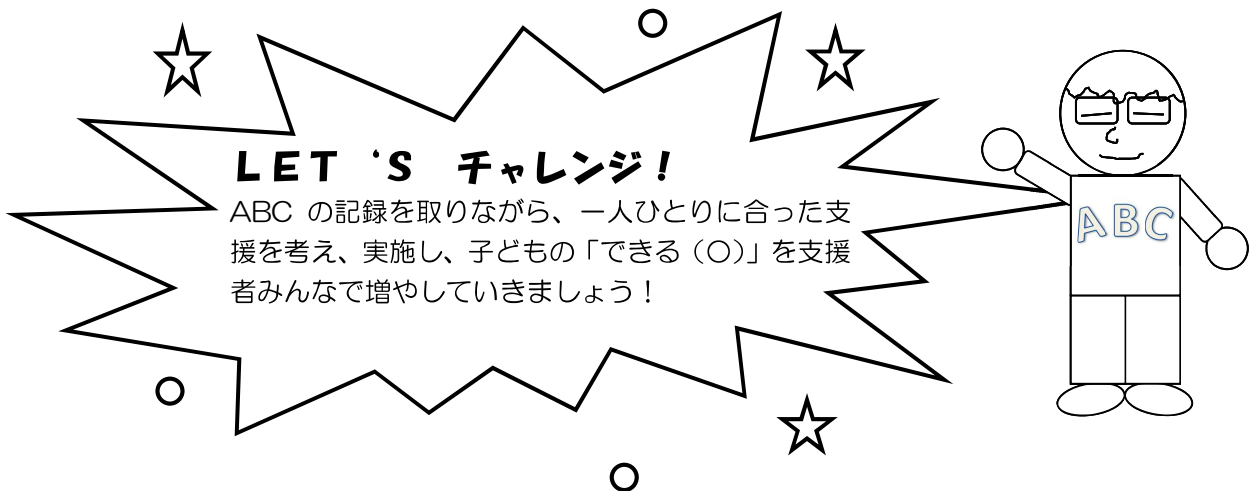
- ☆ 支援を考えたら、実際に行ってみましょう。支援を行う際にも、ABCの記録を行い、2週間から1ヶ月間がたったら、その支援がうまくいっているかどうかを振り返りましょう。

○もし支援がうまくいったら…

- うまくいった支援のABCを見ながら、別の場面や別の行動にその支援を広げてみましょう。うまくいった支援の記録には、次の支援のヒントがたくさん入っているのです。
- うまくいった支援のABCを使って、別の支援者の方に広げていきましょう。せっかく発見した支援を一人で貯めておくのはもったいないです。同じクラスの先生に、同じ園の先生に、という形で広げていけば、一貫した支援を行うことができ、より効果的です。
- うまくいった支援は園の先生だけでなく、保護者の方にもお伝えしましょう。園と家庭での支援を一貫することができれば、支援はもっともっと効果的なものになります。

○もし支援がうまくいかなかったら…

- うまくいかなければ、記録を見ながら、また次の支援を考えて、試してみましょう。次のチャレンジの始まりです。
- 試して、またうまくいかなければ、また次の支援を考えて、試して、考えて…「やった！うまくいった！」を目指しましょう！
- うまくいかないということも、支援を試してみないと分かりません。もしうまくいなくても、そこから見えてくる次の支援のヒントがあります。また、この支援はうまくいかない、合っていないということが分かったという事自体も貴重な発見です。
- 支援をして、もし思ったようにうまくいなくても、それは後退ではありません。何もなかったときよりも何歩も前に進んでいます。失敗を恐れず、次の支援を考えてください。

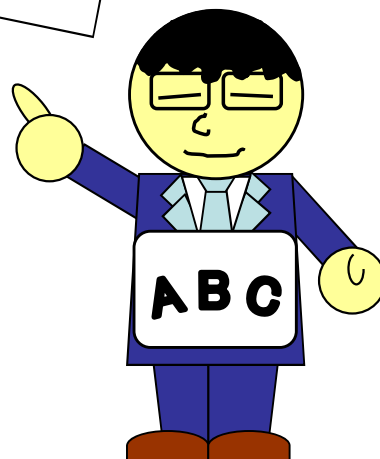


解説編

次のページからは、チャレンジ1から4の解説です。

行動を観察するポイントや、子どもの行動の捉え方などを詳しく説明しています。チャレンジ編を読んで分からない点や、チャレンジを行う中で行き詰ったとき等に参考にしてください。

日頃の子どもたちとのかかわりが、少し整理できるかもしれません。



【解説】取り組む行動を決める！

ポイント 1 - 1 : 行動を分類する

☆ 取り組む行動は、増やしたい行動ですか？減らしたい行動ですか？
行動を3つの分類で整理してみましょう。

○ 取り組む行動は、次の3つの分類のどれに当てはまるか考えてみましょう。

<p>① 増やしたい、 増えてほしい行動</p>	<p>② 減らしたい、 減ってほしい行動</p>	<p>③ 今のままでいい行動</p>
<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に「貸して」と言う ・あいさつをする ・おもちゃを片付ける ・動物の絵を描く <p>もう少しがんばってほしい行動だけでなく、得意な行動も含まれます</p>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他児を叩く ・机を蹴る ・泣き叫ぶ ・床に頭を打ちつける (自傷) 	<p>増えてほしい行動、減ってほしい行動以外の行動 (①②以外の行動)</p>

○ 行動を3つに分類すると、困った状態や支援がうまくいっていない状態を次のように整理することができます。

- ・増やしたい行動が増えない (「〇〇をしなくて困ってるんです」)
- ・減らしたい行動が減らない (「〇〇をするんで困ってるんです」)

○ また、支援を次のように整理することができます。

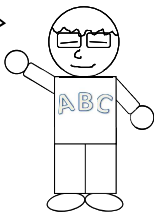
- ・増やしたい行動を増やすためのかわり、工夫
- ・減らしたい行動を減らすためのかわり、工夫

を考えて、実施すること

【 行動を「増やす」「減らす」ポイントは「ポイント 2 - 1 (P. 14)」へ 】

取り組む行動が、「否定型 (～しない、～できない)」の表現になっている場合は、「肯定型 (～する、～できる)」の表現に直してから、分類・整理しましょう。

【否定型の表現】		【肯定型の表現】	
「全体指示で動けない」	→	「全体指示で動く」	⇒ 増やしたい行動
「設定保育に参加しない」	→	「設定保育に参加する」	⇒ 増やしたい行動
「叩かない」	→	「叩く」	⇒ 減らしたい行動
「泣かない」	→	「泣く」	⇒ 減らしたい行動



ポイント 1 - 2 : 行動を具体的にする

- ☆ 取り上げた行動は、もっと細かく分けることができますか？複数の行動が思い浮かびますか？
- 「はい」の場合は、まだ具体的ではありません。

「ルールを守らない」「パニックを起こす」「切り換えが難しい」などの表現は、実は、いろいろな場面や行動を含んでいます。例えば、「ルールを守らない」とは、どんなルールを守らずに、代わりにどんなことをしているのでしょうか？

いろいろな子どもの姿、行動が浮かんでくる表現の場合は、その中の1つに焦点を当てることで具体的な行動にすることができます。

ポイントは、具体的な場면을思い浮かべて、そこで子どもがしていることを表現することです。



○取り組む行動を具体的に表現することのメリット

・支援が考えやすい

取り組む行動を「ルールを守る」に決めると、スゴロクの順番や、お片付けや、話を聞くことなどに一気に取り組まないといけないことになってしまいます。これら全てに通じる支援を考えるよりも、ひとつひとつの具体的な行動に焦点を絞って支援を考える方が、支援が考えやすいです。

・支援を一貫させることができる（支援のポイントがずれにくくなる）

別の支援者の方と取り組む行動について話をするとき、複数の行動が思い浮かぶ表現の場合、その支援者の方がこちらが思っている行動と違う行動を想定してしまうことがあります。このような状態では、支援方法を話し合ったり、支援を共有する際にポイントがずれてしまい、なかなか支援を一貫させることが難しいです。支援者間で支援を一貫させるためにも、子どもの姿が思い浮かぶような具体的な表現を使いましょう。



【解説】行動の ABC を観察し、記録する！



ポイント 2 - 1 : 行動の原理を知る

☆ 「増やしたい行動を増やすために」、「減らしたい行動を減らすために」どんなかわりができるでしょうか？

ここでは、行動が増えたり、減ったりするときの法則（行動の原理）についてご紹介します。

行動は、どのようなときに増えたり、減ったりするのでしょうか。

片付けが苦手なMくんの例を見ながら考えてみましょう。

例 4歳児クラスの担任Y先生が、Mくんという男の子について主任のS先生に相談に来ました。Y先生の相談は、「片付けましょう」と言ってもMくんが全然片付けようとしませんでした。去年の担任のT先生に聞くと、Mくんは片付けられることが多かったとのことです。いったいどうしたのでしょうか？

ここでMくんが、Y先生のことが嫌いだからとか、Mくんの発達上の問題だからといった理由を考えてもなかなかMくんの行動を変えることは難しいものです。

そこで、S先生は、Y先生とT先生からそれぞれ片付けの場面について話を聞き、それぞれのABCを書いてみました。

去年のABC Mくんは、片付けることが多かった

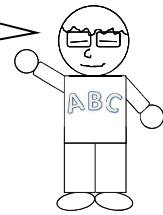
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
お片付けの時間 T先生:「片付けましょう」	電車のおもちゃを片付ける。	T先生:頭をなでながら、笑顔で「えらいね」と言う。

今年のABC Mくんは、ほとんど片付けなくなった

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
お片付けの時間 Y先生:「片付けましょう」	電車のおもちゃを片付ける。	Y先生:「もっとちゃんと片付けないとダメでしょう！」

去年と今年のABCの記録を比べたS先生は、Y先生にABCの記録を見せながら、「**行動の原理**」について話をしました。「**行動の原理**」を勉強したY先生は、自分が知らず知らずの内に、Mくんの「片付ける」という行動を減らす対応をしていたのかもしれないと考えました。そこでY先生はT先生を参考に対応を変えてみました。具体的には、Mくんがおもちゃを片付けたときに、多少片付ける場所が違ったり、はみ出したりしても、まずは片付けたことをいっぱいほめてあげました。するとMくんは、少しずつおもちゃを片付けるようになりました。その後、こんな風に片付けるんだよとY先生が、見本を見せてあげるとMくんはがんばって片付ける姿も見られ、今ではすっかり自信を持ってお片付けをしています。

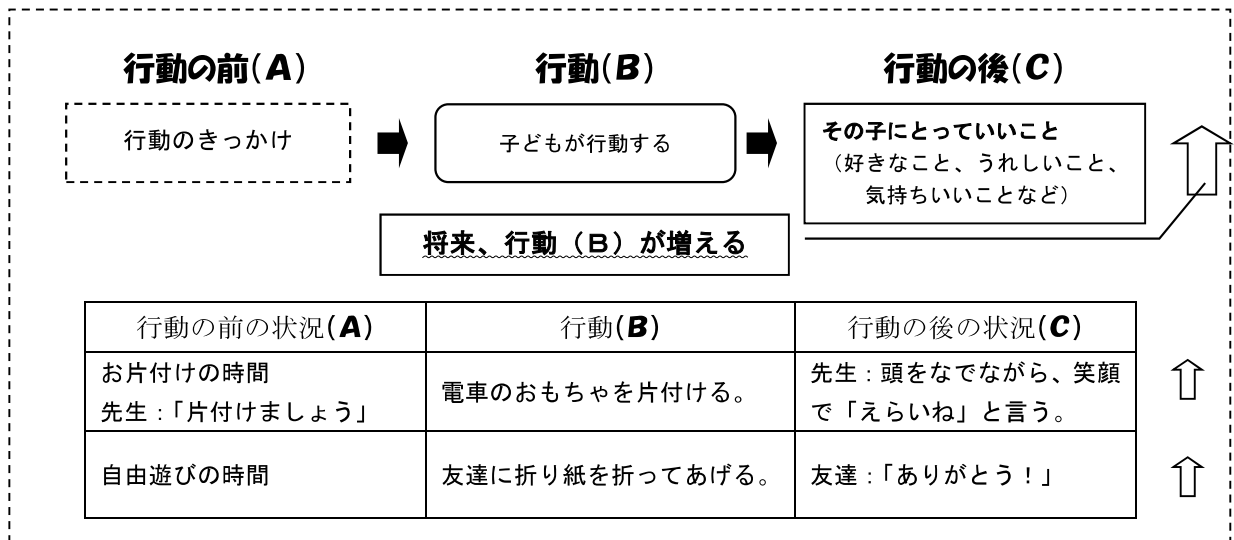
Y先生が勉強した、行動が増えるとき、減るときの『行動の原理』について、ご紹介します。



『行動の原理』：行動が増えるとき・減るとき

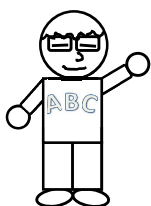
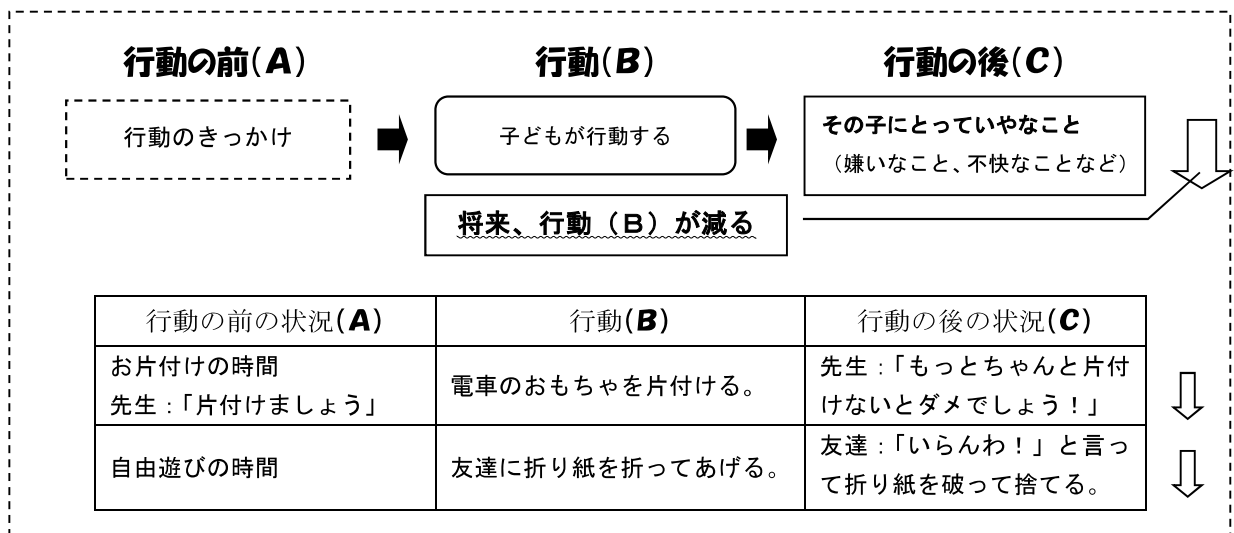
◇ 行動が増えるとき

子どもが行動した直後に、その子にとって“いいこと”が起こる（“いやなこと”がなくなる）と将来その行動は増えます（専門的には「強化」といいます）。



◇ 行動が減るとき

反対に、子どもが行動した直後に、子どもにとって“いやなこと”が起こる（“いいこと”がなくなる）と将来その行動が減ります（専門的には「弱化」といいます）。



行動の直後にどんなことがあったか、どんな対応をしているかといった行動の後の状況(C)が、将来の子どもの行動の増減に大きな影響を与えます。Y先生は、“行動の原理”を知り、行動の後(C)の対応を変えることで、Mくんの片付ける行動を増やすことに成功しました。“行動の原理”を理解して、ABCの記録を行うと、どうしてその行動が起こるのか（起こらないのか）といった行動の理由や、その子に合った支援方法が見えてきます。



ポイント2-2：“いいこと”は子どもによって違う

☆ 行動を増やす子どもにとって“いいこと”（好きなこと、うれしいこと、気持ちいいこと）は、日常の中にたくさんあります。ここでは日常生活でよく見られる“いいこと”を挙げてみます。

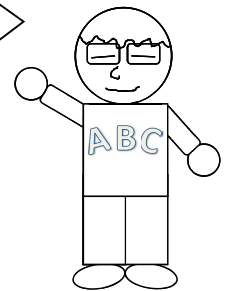
【多くの子どもにとって“いいこと”の例：日常生活で多く見られるもの】

- ・先生のほめ言葉：「よくがんばったね」「すごい！」「上手だね」など
- ・ジェスチャー：親指を立てる、手で「O」を作るなど
- ・スキンシップ：頭をなでる、抱っこするなど
- ・友達や先生からの注目（視線も）：前に出してもらう、リーダーに任命するなど
- ・好きなもの・活動：シール、カード、遊び、ゲーム、食べ物、飲み物など

気をつけて！！

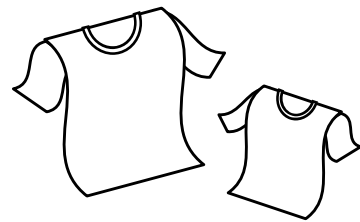
“いいこと”は、子どもの特性や年齢、その日の体調によっても変わります。例えば、多くの園児にとってうれしいであろうスキンシップも、感覚に過敏性のあるお子さんの場合は、うれしいことではなく、むしろ嫌なことかもしれません。先生は、ほめているつもりでも、子どもにとってはあまりうれしくないかもしれません。

支援者がどう思っているかではなく、「その子にとって」いいことであるか（将来の行動が増えるか否か）が重要なのです。



《ちょっと一休み》

『行動の原理』は、大人にも当てはまります。
ABCを使って、考えてみましょう！



【夫の行動のABC】

行動の前の状況 (A)	行動 (B)	行動の後の状況 (C)
休日の朝	洗濯ものをたたむ	妻： 「ありがとう！とってもうれしいわ♪」
休日の朝	洗濯ものをたたむ	妻： 「何これ！もっとちゃんとたたんでよ！」

？

？

夫に、気持ちよく家事を手伝ってほしいと思ったら、行動（「洗濯ものをたたむ」）の後にどうすればよいのでしょうか？どうすれば、望ましい行動が増えるのでしょうか？

【解説】記録をもとに支援を考える！

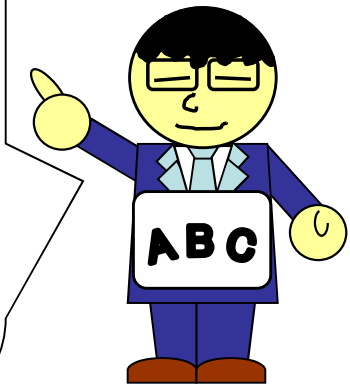
ABCの記録を見ながら、支援を考える（話し合う）際のポイントをご紹介します。

ここで紹介するものは、『チャレンジ3』を行う際のヒントになるものですので、必ず使わなければいけないものではありません。

どの順番で使ってもいいですし、使わないものがあってもいいです。もちろん前から順にすべて使ってもOKです！また、これだけですべて解決しないかもしれません。

重要なことは、ABCの記録を見ながら、対象児と環境（支援者のかかわり等）との相互作用に注目し、いろいろな支援のアイデアを考えることです。

記録を見ながら、他の先生と話し合っ、いろいろな可能性や、アイデアを考えてみましょう！



【ポイント3：支援を考える上でのポイント】

- ポイント3-1：困った行動の理由を考える . . . P. 18
- ポイント3-2：困った行動の理由から支援を考える . . . P. 21
- ポイント3-3：できている行動（○）を探す . . . P. 24
- ポイント3-4：子どもに合った指示を考える . . . P. 27
- ポイント3-5：新しい行動を教えるー教える行動を分けるー . . . P. 30



ポイント3 - 1 : 困った行動の理由を考える

- ☆ 困った行動がどうして起こるのかを考える際のポイントは、ABCの記録を見ながら、場面を絞って、できるだけいろいろな可能性を考えることです。
可能性を考えるときには、行動(B)だけでなく、前後の状況(AとC)を見ながら考えましょう。

ここでは、困った行動の理由としてよく見られるものをご紹介します。

【よく見られる理由】

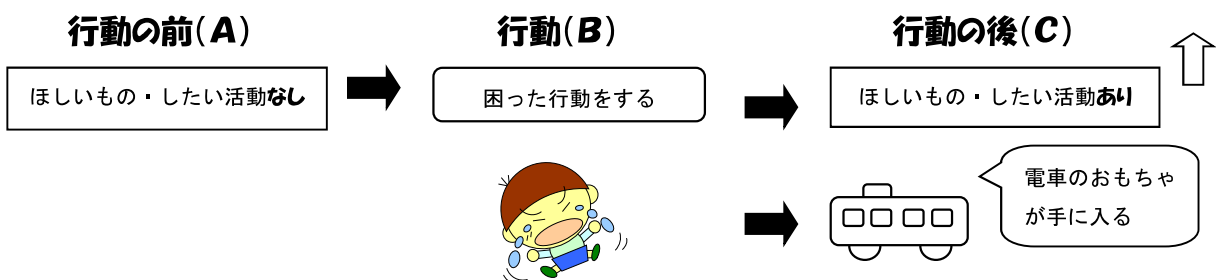
- ① おもちゃなどの物や遊びなどの活動の機会が得られる
- ② 先生や友達の注目が得られる
- ③ 嫌なこと・難しいことから逃避・回避できる
- ④ その行動自体が楽しい・刺激が得られる（自己刺激）
- ⑤ 適切な行動が身につけていない
- ⑥ すべきことが分からない（指示が難しい）

この中で、①から③の理由は、困った行動の後に子どもにとっていいことがあり（いやなことがなくなる）、困った行動が増えている（維持されている）例になります。

①から③を詳しく見てみましょう。

① おもちゃなどの物や遊びなどの活動の機会が得られる<要求>

これは、困った行動をすることによって、ほしいもの（おもちゃなど）が手に入る、したいことができるというパターンです（要求）。「今はこのおもちゃは使いません」とU先生が言った後、O君が使いたいと大泣きしました。U先生が、今日だけはしょうがないと思ってOくんにおもちゃを渡してしまうと、次からもOくんはおもちゃが使いたいときに大泣きするようになってしまうでしょう。U先生は知らず知らずの内に、Oくんの「大泣き」行動を増やしてしまったのです。



ABC分析シート

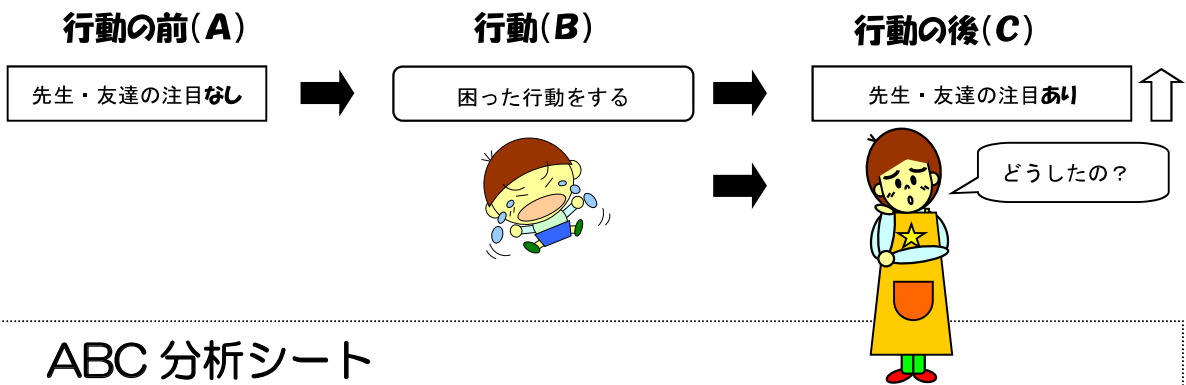
対象児：O（男児）

担任：U先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[朝・部屋・自由遊び] U先生：「今はこのおもちゃは使いません」	「使いたい」と大泣きする。	U先生：Oくんにおもちゃを渡す。

② 先生や友達の注目が得られる<注目>

これは、困った行動をすることによって、先生や友達が注目してくれたり、声を掛けてくれたりするというパターンです（注目）。お昼寝の時間になると必ず大泣きするNくんのABCの記録を見てみると、Nくんが「大泣き」するとK先生がNくんの側に行って声かけをするというパターンが見られました。お昼寝が始まったときにNくんが静かにしていたので、K先生は安心して別の園児の対応をしていたのですが、Nくんが泣きだしたのであわててNくんの側に行って声をかけています。ここでK先生は、自分でも気づかない内にNくんの泣くという行動を増やす対応をしてしまっているのかもしれない。困った行動に対して注意することも、子どもによっては注目となり、行動を増やす対応となる場合があります。ロッカーに登ったNくんにK先生が一生懸命降りなさいと注意しているけれど、Nくんはうれしそうにロッカーの上を歩いています。こんなときは、先生の注意が、ロッカーに登るという行動を増やしてしまっているのかもしれない。



ABC 分析シート

対象児：N（男児） 担任：K先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[昼食後・部屋・お昼寝] お昼寝が始まる。	静かにしている。	K先生：別の園児の対応をしている。
〃	泣き出す。	K先生：Nくんの側に行って「どうしたの？」と声をかける。

ABC 分析シート

対象児：N（男児） 担任：K先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[お昼寝の後・部屋・自由遊び] K先生：別の園児と絵本を見ている。	ロッカーに登る。	K先生：「降りなさい」
〃	うれしそうにロッカーの上を歩く。	K先生：「降りなさい」

③ 嫌なこと・難しいことから逃避・回避できる<逃避・回避>

これは、困った行動をすることによって、嫌なこと・難しいこと（制作の課題、片付けなど）がなくなったり、しなくてよくなったりするというパターンです（逃避・回避）。片付けのときに、Rくんは必ず大泣きします。W先生は、最初は、片付けましょうとRくんに言うのですが、Rくんが泣き続けるので、Rくんに片付けさせるのをあきらめて、Rくんの側を離れてしまいました。Rくんの「大泣き」は、片付けという嫌な活動がなくなることによって、増えて（維持されて）いるのかもしれない。


行動の前(A)

嫌な活動・難しい課題あり

片付けなさい!

行動(B)

困った行動をする



行動の後(C)

嫌な活動・難しい課題なし

~~片付けなさい!~~

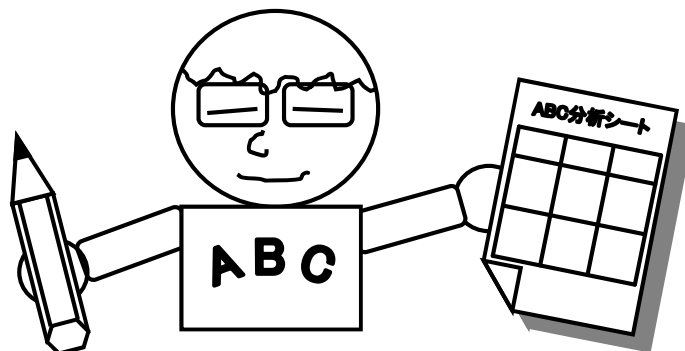
ABC分析シート

対象児：R（男児） 担任：W先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[朝・部屋・自由遊びのおわり] お片付けの時間になる。	大泣きする。	W先生：「片付けましょう」
"	泣き続ける。	W先生：あきらめてRくんの側を離れる。

①から③の理由を詳しくみてきましたが、ここでのポイントは同じ「大泣き」でも、その理由が違うということです。行動の理由や働き（機能）は、行動だけでなくその前後の状況（AとC）を合わせてみることによって、見えてくることが多いです。

行動の理由は、①から③以外にも、④から⑥や、ここで紹介していないものもあります。また、困った行動の理由は1つとは限りません。日常生活の中では、複数の理由によって行動が起こっている場合の方が多いかもしれません。ABCの記録を見ながら、できるだけたくさん理由を考えてみてください。





ポイント3 - 2 : 困った行動の理由から支援を考える

- ☆ ポイント3 - 1で紹介した困った行動の理由①から③に対応した支援方法についてご紹介します。困った行動の理由の①から③のいずれかに該当する場合は、支援を考える際の参考にしてください。

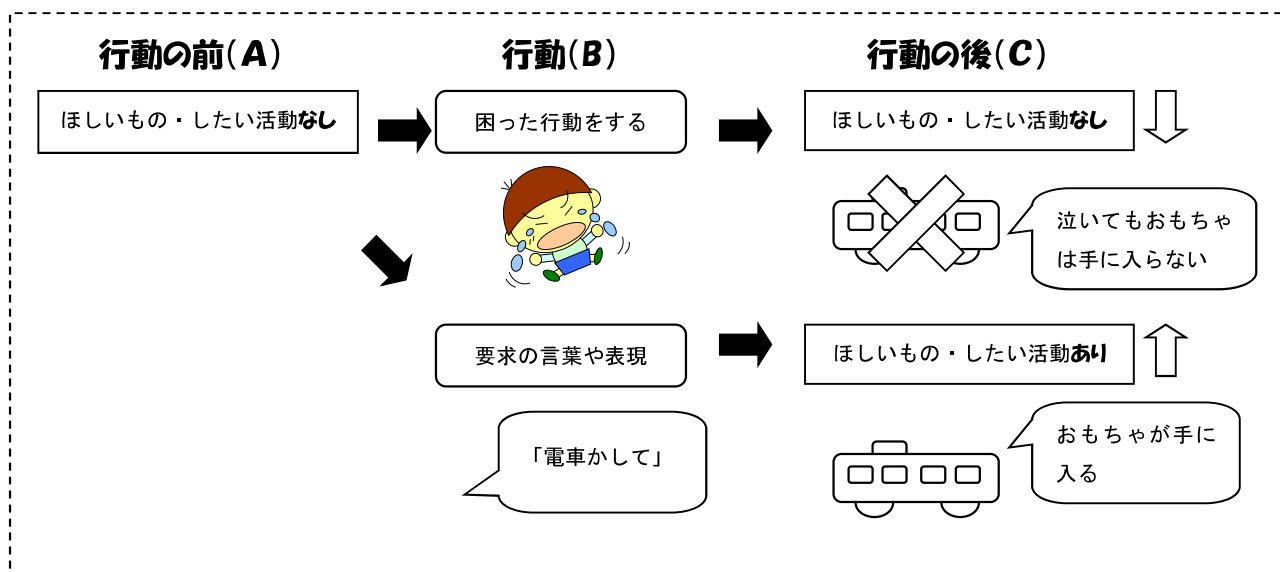
【行動の理由①】 <要求> の場合の支援方法

要求を言葉などの表現で伝えられるように支援しよう！

泣いたり、叩いたりといった困った行動をすることで、ほしいものや活動の機会を手に入れているのなら、困った行動の代わりに使える要求の言葉や表現（ジェスチャー、絵カードなど）を教えるということが有効な支援の1つです。

この支援を行うときのポイントは、はじめは、教えた行動を子どもが少しでも行ったら、すぐにほしいものや活動の機会を提供することです。せっかくがんばって、言葉で要求を伝えたのに、うまくいかなければ（ものや機会が得られなければ）、行動の定着は難しいです。

これと同時に、困った行動をしたときには、ほしいものや活動の機会が“絶対に”得られないように対応することも大切です。



【行動の理由②】 <注目> の場合の支援方法

困った行動の代わりにしてほしい行動に注目しよう！

部屋を飛び出したり、大泣きしたりする行動は、とても目立つもので、先生や周りの子どもの注目を集めやすいものです。反対に、頻繁に部屋を飛び出す子が設定保育のときに座っているときや、お昼寝のときにいつも大泣きする子が静かにしているときは、先生は安心してしまっていて、注目していないかもしれません。その子に飛び出さずに部屋の中で過ごしてほしいなら部屋を飛び出す前に、泣かないで寝られるようになってほしいなら大泣きする前に、注目を向けてあげる必要があります（「ポイント3 - 3 (P. 24)」参照）。頻繁に飛び出す子の場合、設定保育のときにちゃんと座れ

ていたら、そのことをほめてあげるのもいいですし、自由遊びのときに積木で遊べていたら上手に作れていることをほめてあげるのもいいかもしれません。また、飛び出す前に注目を向けてあげると合わせて、飛び出したことに注目しないことも大切です。これまでその子が飛び出すと必ず追いかけていたなら、安全を確保した上で、追いかけておく必要があります（「コラム（P.23）」参照）。もちろん飛び出した子が、部屋に戻ってきたら、そのことをほめてあげたり、注目を向けてあげることも重要です。

困った行動で注目を得ているときには、困った行動がよく起こる場面（設定保育、自由遊び、給食の準備等）で、代わりにしてほしい行動にたくさん注目を向けて、反対に困った行動には注目しないという支援が有効です。代わりにしてほしい行動として、「せんせい、あそぼう」などの言葉を教えるというのもいいかもしれません。

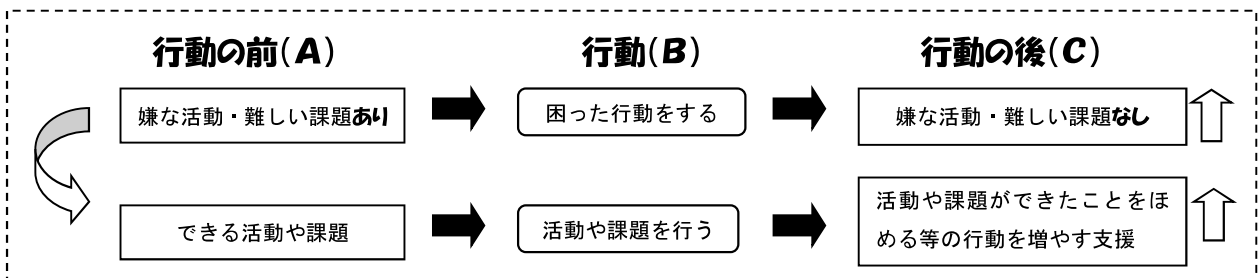
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔教室・午前・設定保育〕 先生:「座りましょう」	外に出ていく。	先生:追いかけて行って、どうして飛び出したのかを聞く。
〔教室・午前・設定保育〕 先生:「座りましょう」	座っている。	先生:「バッチリ、座れてるね」とほめる。

【行動の理由③】 <逃避・回避> の場合の支援方法

取り組んでほしい活動や課題のスマールステップを考えてみよう！

困った行動が起こったので、活動をしてもらうのをあきらめたり、別の課題をしてもらっていると、子どもは嫌な活動や、難しい課題が出たときにその対処方法として、困った行動を行うようになります。無理してやらせようとして、困った行動が起こり、結局、根負けして課題や活動をしなかったということになると、本当はそこで体験してほしいことや、学んでほしいことではなく、困った行動によってその状況を逃避・回避できるということを学んでしまうこととなります。こんなパターンになってしまっているのなら、その課題は“現在の”園児に合っていないかもしれないと思って、スマールステップを考えてみましょう。活動や課題の難易度を下げたり、量を減らしたり、子どもの好きなもの（おもちゃやキャラクターなど）や、得意な活動などを取り入れて、今その子の「できる」活動を考えてみましょう（「ポイント3 - 5（P.30）」参照）。もちろん少しでも活動や課題に取り組めたら、そのことがしっかり増えていくように行動の後の対応も忘れてはいけません。

活動や課題を簡単にして、園児が取り組むことができたら、難易度を上げるなどして、少しずつステップアップし、最初にしてほしかった活動や課題に近づけていきましょう。



【コラム：困った行動への対応 ～注目しない～】

ポイント3 - 2で紹介した支援の中では、困った行動に代わる適切な行動を引き出す支援と同時に、これまで行っていた困った行動の後の対応（要求をかなえる、注目を向ける、課題の中止など）を止めることをお伝えしました。

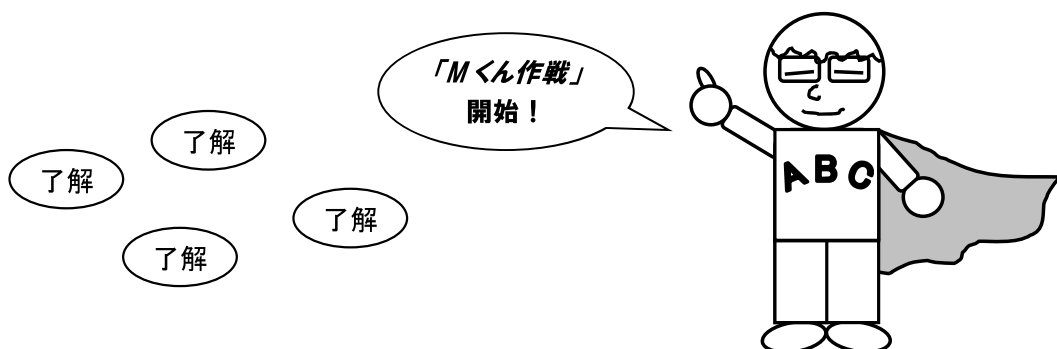
これまで泣けば、あるいは部屋を飛び出せばうまくいっていたのに、突然それがうまくいかなくなると一時的に困った行動がひどくなることがあります。これまでと同じように泣いているだけでは先生がおもちゃを渡してくれないとなれば、もっと大きな声で泣くかもしれません、先生を叩くかもしれません。この時にもしおもちゃを渡してしまったらどうなるでしょうか？次からその子は、同じ状況で、大声で泣いたり、先生を叩くようになるでしょう。これは、ひどくなった状態の行動を増やす対応をしてしまったことをあらわしています。

ポイントは、いったん困った行動を増やしている対応（子どもにとっていいこと）を止めると決めたら、一時的に行動がひどくなっても“絶対に”止め続けることです。一時的にひどくなっても、しばらくすると困った行動は減ってきます。もちろん困った行動への対応を止めるのと合わせて、適切な行動を増やす支援を行うことを忘れてはいけません。

困った行動を増やす対応を止めるときに、難しいのが「注目を止める」ことです。困った行動をしても先生は全然影響されないということを園児に伝えるためには、視線を向けない、返事をしない、顔色を変えない、別のことをするなど態度で示す必要があります。

困った行動に「注目しない」ということを態度で示すことは、あらかじめ準備しておかないととても難しいです。計画的に行う必要があるのです。計画的に行う際には、園児にかかわる先生方全員で一貫して実施しなければいけません。一人の先生ががんばっていても、別の人が注目してしまったら、水の泡になってしまうのですから。ケース会議等で、園全体に理解を得ることができると、とても取り組みが進めやすいです（連携する際には、「〇作戦」などの名前をつけて実施するのも役立つかもしれません）。また、毎日一貫して実施する必要があります。何があっても一貫して対応する方が、子どもにとって行動と結果のつながり（「大きな声を出しても先生は全然反応してくれない」など）が分かりやすいのです。

ここでポイントになるのは、注目しないのは子ども自身ではなくて、「困った行動」であるということです。困った行動に対しては注目しないという態度を示しながら、子どもの様子は視線の端で捉えておきます（もちろん、そのことは子どもに気づかれてはいけません）。子どもがあきらめて、困った行動を止めたり、困った行動以外の行動をし始めたら、そのときにこれまで向けてこなかった注目を一気に子どもに向けましょう。このメリハリがハッキリしているほど子どもには分かりやすく、有効な支援となります。





ポイント3 - 3 : できている行動 (○) を探す

☆ 発達の気になる園児の支援を考える際には、困った行動 (×) を減らすことよりも、適切な行動 (○) を増やすことに焦点を当てるのが有効です。

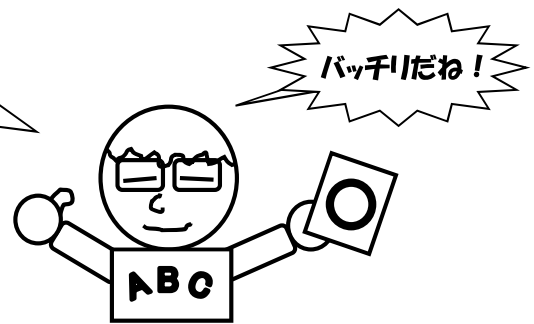
このような支援を行うためには、今現在の園児のできている行動 (○) を積極的に見つけていくことが大切です。

できない行動、困った行動は目立ちやすく、反対にできている行動、適切な行動は目立ちにくいものです (適切な行動は、意識しないとつい「できて当たり前」になってしまいがちです)。困った行動が目立っているときこそ、できている行動を積極的に探してみましよう！

👉 できている行動 (○) を探す

- ① ABCを見ながら、できているところ (できていると考えてあげてもいいところ) はないか探す。
- ② 発見した「できている行動 (○)」の後に行動が増える対応 (ほめる等の子どもにとっていいこと) があるか確認する。

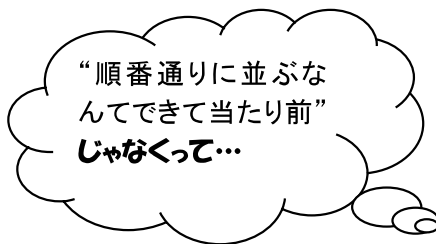
もし「できている行動 (○)」の後に行動が増える対応がないのなら、まずはその行動をほめる等の支援から始めてみましょう！



👉 できている行動 (○) を探すためのコツ

コツ①: “できて当たり前”をいったん横に置く

園児のできている行動 (○) を探すためのポイントは、“できて当たり前”という考えをいったん横に置くことです。「5歳児さんなんだからこれくらいは…」「みんなできているんだからこんなことは…」といった具合に、意識しないとつい“できて当たり前”という気持ちが出てくる場合があります。できている行動 (○) を探すときには、他の園児と比べるのではなくて、その子の2週間前、半年前を考えて、ここまではできるようになったという部分を探しましょう。2週間前、半年前を振り返る際には、以前のABCの記録を見るのも1つです。具体的な状況を思い浮かべながら、お子さんのできるようになったことを確認してみましょう。



すごい！ちゃんと列の後ろに並べたね！

コツ②:いつもの困ったABCのパターンが起こらない

ABCの観察記録をつけていると、この場面では、行動をするだろう（しないでろう）というパターンが見えてきます。パターンが見えてくると、「この場面では、（本当はしてほしいけど）行動をしないでろうな」や、「この場面では、困った行動をするだろうな」と予測できるようになってきます。また、ときどきこの予測に反して、してほしい行動をしたり、困った行動をしなかったりする場面に出会うことがあります。この予測に反する行動も、園児のできているところ（○）になります。この園児の「○」の行動に対して、積極的にほめる等の声かけをして、どんどんその「○」の行動を増やしていきましょう。

ABCの記録をして見えてきた園児の行動のパターンが良い意味で裏切られたら、そこには子どもの「○」があるのです。

例)

- ・鬼ごっこでタッチされたときによく叩く子どもが、叩かずに鬼ごっこが続けられた ⇒ OK!
(×:叩かずに鬼ごっこするなんて当たり前)
- ・着替えるのを嫌がって泣いていた子が、手伝ってもらったけど泣かずにできた ⇒ OK!
(×:手伝ってもらってできるのは当たり前)

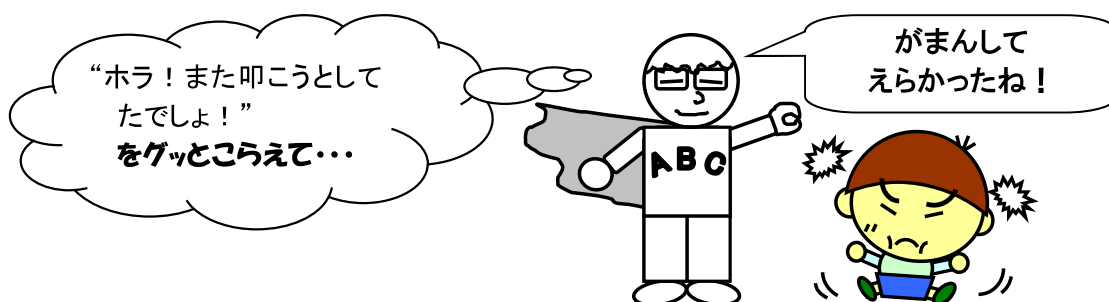
コツ③:OKにする基準を下げる

子どものできている行動が見つげにくい場合は、目標とする「できる」の基準がその子に合っていない(高すぎる)のかもしれませんが、そんなときはその子に合わせた基準を設定する必要があります。具体的には、子どものできている行動が見えてくるまで基準を下げるのです。

基準の下げ方にはいろいろなものがありますが、目標とする行動を時間や、回数に直すこと(数値化)もその1つです。「朝の会に参加してほしい」という目標を「朝の会に20分参加してほしい」という具合に数値化すれば、後は目標の数値をその子ができるところまで下げること(「最初の2分は参加してほしい」)によって調整することができます。まずは、支援付きでもいいからその子ができる基準から始めて、様子を見ながら少しずつ基準を上げていくことが大切です。

☆ せっかくがんばっている部分もあるのに、先生自身が、細かい失敗にこだわってしまっていないですか。もっともっとという気持ちをグッとこらえて、まずは子どものできていることを積極的に探してみましょう!

☆ 「叩こうとしたけど、叩かなかった」場合は、「叩こうとした(×)」ことに注目しそのことを注意するよりも、「叩かなかった(○)」ことに注目しそのことを積極的にほめてあげましょう!



【コラム：子どもの好きなこと、得意なこと】

ポイント3-3では、主に普段は見過ごしてしまうような子どもの「〇」を発見することに焦点を当ててお話ししました。

子どもの「〇」に関しては、この他にも、その子の好きな活動や得意な活動、好きなおもちゃやキャラクターなどの情報も支援を考える上で役立つものになります。

設定保育に参加してほしいときなどは、先生のかかわりも重要ですが、子どもが取り組みやすい活動や課題を用意することも合わせて重要な支援となります。取り組みやすい活動、課題を考える際には、子どもに合わせてその難易度を調整することも有効なものです。子どもの好きなことや得意なことを取り入れることも有効です。好きな活動や得意な課題を取り入れたり、好きなもの（キャラクター等）を使った課題を考えたりすることで、その子にとって楽しい課題や取り組みやすい課題を作り出すことができます。

子どものできないところだけでなく、できていること、得意なことについての情報や、その子がどんなことが好きかについての情報を集め、それを書きとめて、眺めてみると、意外な支援のヒントが見つかるかもしれません。



ポイント3 - 4 : 子どもに合った指示を考える

- ☆ 先生の指示を聞いて活動することは、保育園等の集団生活の場面ではとても大切なことです。そのため、「その子に合った指示」「その子にとって分かりやすい指示」を工夫することも重要な支援になります。ここでは、子どもに合った分かりやすい指示を考える際のポイントをいくつか紹介します。

👉 指示の 内容 を工夫してみよう！

分かりやすい指示①：「具体的な」指示

最初にご紹介する指示は、具体的な指示です。ABCの記録を見て、園児が指示で動けていないときには、その指示をもっと具体的にできないか考えてみましょう。具体的な指示を考える場合は、ポイント1 - 2 (P. 13) でご紹介した具体的な行動を表現するためのポイントを思いだしてください。いろいろな行動が思い浮かぶものはその中の1つを取りだして表現する、実際の子どもの姿・行動が思い浮かぶような表現をすることが大切です。

他にも、ポイント3 - 5 (P. 30) で紹介する行動を細かく分ける(課題分析)ことも具体的な指示を考えるときに有効です。

また、「ちゃんと～」「きちんと～」「しっかり～」などは、よく使う指示ですが、これらはもっと具体的にできます。子どもが指示で動けない場面のABCを振り返って、「ちゃんと座りなさい」「きちんと片付けなさい」などの指示を発見したら、ちゃんと座るって具体的に何をすることだろう？きちんと片付けるって具体的に何をすることだろう？という風に考えてみてください。考える際には、ちゃんとできている子どもの姿とちゃんとできていない子どもの姿を思い浮かべて、できていない子どもが、何と、何と…何をすれば、ちゃんとできていることになるのかを考えてみてください。

(例) ドッチボールの場面：

「ルールを守りなさい」	⇒	「線の外からボールを投げて」
-------------	---	----------------

(例) 椅子に座る場面：

「ちゃんと座りなさい」	⇒	「背筋をのばす」「足を床につける」 「顔を先生の方に向ける」など
-------------	---	-------------------------------------

分かりやすい指示②：「シンプル(簡潔)な」指示(1つの指示で1つの行動)

指示が長いために、指示を全て聞きとれなかったり、せっかく聞いた指示を忘れてしまって、指示通りに動けなくなっている子どもがいます。

長い指示で動けない子の場合、指示を短くシンプルにすることが有効です。

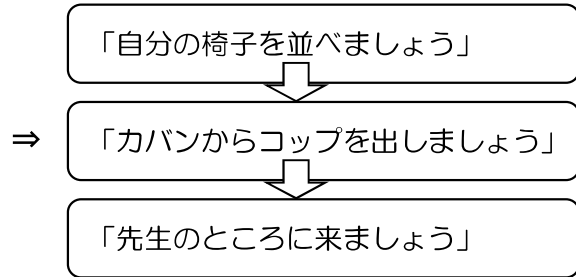
最もシンプルな指示というのは、すること(行動)が1つの指示です。1つの指示の中にすることがたくさん入ってあればいほど、言いかえると、指示の中に含まれる行動の数が増えれば増えるほど、より難易度の高い難しい指示になります。

最初は、1つの指示に1つの行動というもっともシンプルな指示から始めて、子どもの状態に合わせて、指示の中に入れる行動の数を少しずつ増やして、徐々に長い指示でもできるように支援をステップアップしていきましょう。

(例) 給食の準備の場面：

「自分の椅子を並べた人は、カバンからコップを出して、先生のところに来てね」

複数の行動が入った指示



1つの行動のみの指示を1つずつ

分かりやすい指示③:「～しない(×)」ではなく「～します(○)」の指示

「廊下は走らない」や「呼び捨てにしない」などの「～しない」という指示が難しい子どもがいます。

「廊下は走らない」や「呼び捨てにしない」という指示には、してはいけない行動は示されていますが、代わりにすべき行動(「廊下は歩く」「■■くん(▲▲ちゃん)と呼ぶ」)は示されていません。「～しない」の指示だけでは、代わりに何をすればいいのかわからず、動けない子どもがいます。そんな子の場合は、「(～せずに)～して」という代替の行動を明示した指示が有効です。

また、「～しない」という指示は、多くの場合、注意されたり、叱られることとセットになります。「～しない」と言って頻繁に叱られている子の場合は、「～しない」が叱られることのサインになっている場合があります。このような子の場合には、指示の内容にかかわらず「～しない」という言葉(叱られることのサイン)に反応して、反抗的な態度をとってしまい、指示を聞くことができなくなってしまいます。こんな場合にも「(～せずに)～して」という指示は、有効なのです。

(例) 自由遊びの場面：

「おもちゃを勝手にとらない！」

してはいけない行動の指示

⇒

「『かして』って言って」

代替に行う行動の指示

☆ ここまでに紹介した指示の**内容**以外にも、指示の**出し方**を工夫することが有効な場合もあります。ここからは、指示の出し方の工夫について見ていきましょう。

👉 指示の出し方を工夫してみよう！

指示の出し方の工夫①:言葉の指示とセットで行うかわり

言葉の指示だけでは分かりにくい子どもの場合、言葉と一緒に視覚的な手がかりを提示することで動くことができる場合があります。他にも、見本を見せたり、移動の際に少し背中を押してあげるなどのかわりをセットにすることで動きやすくなる場合があります。

<指示とセットで行うかかわり>

- ・視覚的な手がかり：指さし、指示と対応した物（「外に行く」＋帽子、「お茶を飲む」＋コップなど）を見せるなど
- ・見本を見せる（モデリング）：先生、他の園児
- ・身体的ガイダンス（誘導・補助）：席に誘導するなど

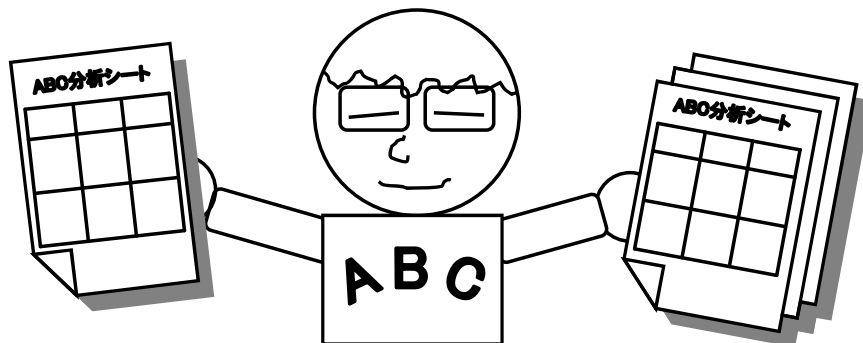
指示の出し方の工夫②：指示への注目

指示が出たときに、先生の方に注意が向いていないために、指示で動けない園児がいます。指示を出している先生に注目することで、動きやすくなる園児の場合には、その子が、先生に注目していることを確認してから指示を出したり、指示を出す前にこちらに注目を向けるかかわり（名前を呼ぶ、声の強弱をつける、目を合わせるなど）を行うことが有効です。

指示の出し方の工夫③：指示の形式

全体指示ではできない子どもでも、個別に指示すれば動けることはよくあることです。個別指示で動ける子どもが、全体指示で動けるようになるための間のステップとして、間接的な指示があります。例えば、対象児の近くで全体指示をくり返す（あくまで全体指示の形式で行いません。個別の指示のように目を合わせて行ったりはしません）、対象児の近くのできている子どもの具体的な行動をほめるなどが、間接的な指示になります。全体指示、間接的な指示、個別指示の中でどんな形式の指示で動けるのかをA B Cの記録を行う中でつかんでいきましょう。

- ☆ その子にあった指示の内容や指示の出し方を発見するためには、指示で「動けなかった場面（×）」のA B Cだけでなく、「動けた場面（○）」のA B Cの記録を行う必要があります。動けなかった場合と動けた場合の**指示の内容や出し方の違い**に注目することで、その子に合った指示が見えてきます。





ポイント3 - 5 : 新しい行動を教える

- 教える行動を分ける -

- ☆ 子どもに新しい行動、活動、課題を教えるときのポイントについてご紹介します。教えた行動が、対象児にとってすぐに行うことが難しい場合には、その行動を細かく分ける（課題分析）と教えるべきポイントがはっきりして、支援が考えやすくなります。ここでは、行動を細かく分ける（課題分析）方法について見ていきます。

教える行動を分ける

①目標とする行動、教えた行動を具体的にする（「ポイント1-2(P.13)」参照）

「目標とする行動、教えた行動について複数の行動や場面が思い浮かびませんか？」

→ 「はい」の場合は、それらを紙に書き出して、その中の1つを選ぶ → ②へ

→ 「いいえ」の場合は、②へ

②具体的な行動を時系列で分ける

選んだ行動を、時系列で分けていきます。時系列で分けるときには、白紙の紙を用意し、そこに時間の流れにそって行動の手順を書いていきます。一通り書き出したら、追加する行動や、さらに細かく分けられそうな個所がないかを見て、書き加えていきます。思いついたものから、どんどん書き足していきましょう！

→ 行動の手順が書けたら③へ

③「課題分析シート」に記入する 【課題分析シート例】(P. 31)参照

②の手順を課題分析シートに記入します。

→ 記入が終わったら④へ

④「課題分析シート」にチェックする

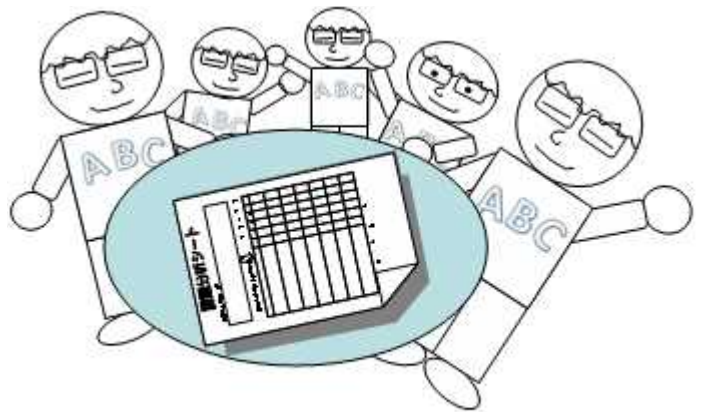
課題分析シートの各項目にできているところとできていないところをチェックする。チェックする場合は、できる（○）、できない（×）の2段階でもいいし、支援なしでできる（◎）、声かけでできる（○）、身体的ガイダンスでできる（△）、できない（×）という具合に支援の度合いに合わせてより多くの段階を設けるのも有効です。すぐには判断できないという場合は、実際の場면을観察してチェックをつけてみてください。日によってできたり、できなかったりすることがありますので、数日にわたってチェックすることをお勧めします。

→ チェックが終わったら⑤へ

⑤ 支援を考える

課題分析シートのチェックを見ながら、現在の支援方法を振り返ってみます。
 まずは、課題分析シートにチェックを行って、現在対象児はどこまでできているのかをつかんでください。「◎」、「○」、「△」が付いた項目、これは支援付きでもできている項目になります。これらのできている項目に対して、行動の後に「ほめる・認める」等の行動を増やす対応がない場合は、まずはそれを行うことも有効な支援になります（できて当たり前と思っ
 てはいけません）。
 「×」が付いた項目、これが現在対象児ができない行動になります。複数の「×」がある場合は、その中の1つに絞って支援を考えることで、支援がずいぶん考えやすくなります。

☆ ここで紹介した行動を分ける活動は、一人で行うよりも、複数の先生で行うことをお勧めします。一人で行うよりも、複数の先生で話し合いながら行うといろいろなアイデアが出ますし、何より楽しく行うことができます。



【課題分析シートの例】

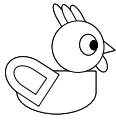
課題分析シート

① 目標となる行動・活動：
食事の準備をする。

② 目標となる行動・活動を分ける 月 日 ~ 月 日

		/	/	/	/	/	/
全体指示でおもちゃを片付ける							
靴をぬぐ							
手を洗う							
お部屋に入る							
かばんを取りに行く							
スプーンを出す							
椅子を出す							
コップを取りに行く							
椅子に座る							

◎：支援なしでできた ○：個別指示でできた △：保育士が手伝ってできた ×：できなかった


ポイント 4 - 1 : 記録を使って支援の効果を調べる

- ☆ 考えた支援を実施し、その支援がうまくいっているかどうかを振り返るための記録としては「ABC分析シート」以外にも、「課題分析シート」や「行動の記録シート」を使うことができます。ここでは、その支援が効果的なものであるのかを調べるための記録として「行動の記録シート」と「課題分析シート」をご紹介します。

「行動の記録シート」とは

行動の記録シートは、場面を決めて行動の回数を数えたり、一日をいくつかの時間帯に分けて行動が起こったかどうか等を記録するものです。取り組む行動の種類や、先生の時間の都合等に合わせで記録方法を調整します。詳細な記録の方が、子どもの変化を捉えやすいですが、その分負担も大きくなります。先生の無理のない範囲で続けられる記録を行うことがポイントです。

実際に行動の記録シートを使う場合は、記録方法に合わせて、横線を引いて欄を増やします。下の記録の例を参考に、使いやすい記録シートを作ってください。

例) 行動の回数を記録する
記録する行動: ロッカーに登った回数

時間帯	5 / 10(木)	5 / 11(金)	5 / 12(土)	5 / 14(月)	5 / 15(火)
お昼寝の時間	6	休	7	9	8
備考欄 (新たな支援・取り組みなど)					

休：園児が欠席 (斜線) /：観察なし

例) どれくらい行動したかを数値で記録する

記録する行動: 朝の会に参加する (0:最初から最後まで参加できなかった 1:部分的に参加できた
2:半分以上参加できた 3:最初から最後まで参加できた)

時間帯	5 / 10(木)	5 / 11(金)	5 / 12(土)	5 / 14(月)	5 / 15(火)
朝の会	0	1	1	0	2
備考欄 (新たな支援・取り組みなど)					

休: 園児が欠席 (斜線) / : 観察なし

例) 行動が起こったか起こらなかったかを記録する

記録する行動: 友達を叩く (0:叩かなかった 1:叩いた)

時間帯	5 / 10(木)	5 / 11(金)	5 / 12(土)	5 / 14(月)	5 / 15(火)
午前 (登園～給食準備の直前まで)	1	0	0	1	0
給食 (給食準備～お昼寝まで)	1	1	1	1	1
午後 (お昼寝後～帰宅まで)	1	1	0	1	1
備考欄 (新たな支援・取り組みなど)					

休: 園児が欠席 (斜線) / : 観察なし 0: 行動がなかった 1: 行動があった

「行動の記録シート」と「グラフ」の使い方

行動の記録シート

行動の記録シートは、新しい支援を行う前に記録を開始します。いつも通りの対応で、実際にどれくらい困った行動を行っていたり、望ましい行動を行っていなかったりするのかを調べます。記録してみると思っていたよりも、困った行動が少なかったり、望ましい行動が多かったりということもよくあることです。支援前に行動の記録を取ることで、より正確な子どもの状態を捉えることが

できます。

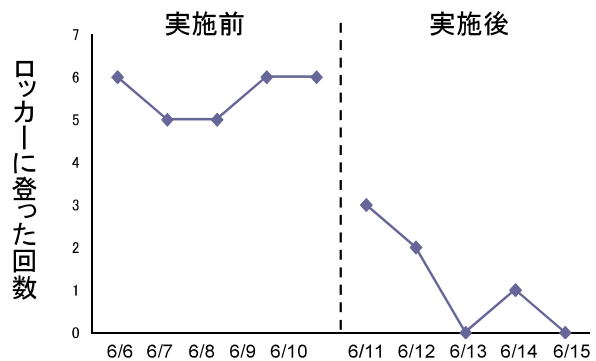
新しい支援を始めたら、2週間から1ヶ月間その支援を継続します。この間も、同様の記録を行います。

グラフ

行動の記録シートの記録をグラフにするとより支援の効果を判断しやすくなります。

支援の振り返り時に一気にグラフを作るよりも、行動の記録シートの記録をもとに定期的にグラフを更新し、子どもの状態をつかんでいくことも重要です。

	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	
	5	6	6	3	2	0	1	



行動の記録シートに困った行動を記録するときは、困った行動が起こらなかったときにも記録することが大切です。

困った行動が起こったときだけ記録していると「またか…」と困った行動にばかり目を向けてしまうこととなります。

困った行動が起こらなかったということは、とてもうれしいことなので、そこに「○」などを記入してみましょう。こうすることで、「また『○』が増えた」という風に記録を見ることができ、楽しく記録を行うことができるかもしれません。

「課題分析シート」の活用

課題分析シート（「ポイント3 - 5 (P. 30)」参照）も行動の記録シートと同じように使うことができます。新しい支援の前後に記録を行い、それをグラフにすることで、子どもが新しい行動を着実に獲得しているのかどうか、を確認することができます。

日々の保育の中で、考えた支援が実施できないことがあります。
そんなときは、自分を責めないでください。

支援の実施が難しいのは、先生が悪いのではなくて、その支援が今のクラスの状況や園の体制に“合っていない”ただそれだけです。

そんなときは、もっと行いやすい、今の状況に合った支援を考えましょう。
自分が支援を行うために必要なもの（他の先生の協力、園の体制、支援の報告会など）を考えてみましょう。

「先生自身が行える支援、続けられる支援を考える」という新しいチャレンジのスタートです。

一人でがんばらないでください。
同じクラスの先生、主任の先生、所長先生等、いろいろな方と話し合いの時間を持つなどして連携していきましょう。

もし、疲れてしまったら、休憩してください。
誰でも疲れることはあります。ずっとがんばり続ける必要はありません。

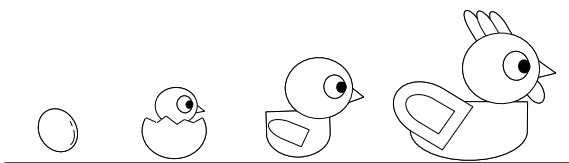
休憩すれば、また「チャレンジしたい！」という元気がわいてきます（あせる必要はありません）。

最後の支援のポイント、それは、子どもの楽しい生活を支援するためには、なによりもまず先生自身が**楽しく支援を行う**ことです。

支援はうまくいくこともあれば、そうでないこともあります。子どもが変わってきたと思っていたら、また新しい問題が出てきてしまうこともよくあることです。新しい問題が出てきたというのは、これまでの問題が解決したから、つまりは子どもの成長の証なんだという気持ちで気長に取り組んでいきましょう。

本書で紹介した4つのチャレンジを行い、皆さんが試行錯誤される中で支援を考え、実践すれば、その中で、お子さんは確実に成長していきます。

子どもの小さな成長をその子にかかわる支援者みんなで共有しながら、楽しくチャレンジを続けていきましょう。



事例検討シート

1. 対象児について記入してください。

性別 / 年齢 / クラス	(男 ・ 女) / (才 ヶ月) / (歳児クラス)
---------------	--

2. 対象児について、保育園での気になる行動または困っている行動を具体的に記入してください。

* 記入した行動の中から、今回取り組む行動を1つ選んで丸をつけてください。

3. 対象児について、保育園で期待される（大半の園児ができています）行動のうち、できているもの（支援付きを含む）があれば具体的に記入してください。

ABC分析シート

観察者： _____

対象児：

日付

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
{ }		
{ }		
{ }		
{ }		

ABC分析シート

観察者： _____

対象児：

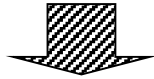
日付

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[]		

課題分析シート

①目標となる行動・活動：

--



②目標となる行動・活動を分ける

月 日 ~ 月 日

	/	/	/	/	/	/

◎：

○：

△：

×：

行動の記録シート(年 月 日 ~ 月 日) 記録者

記録する行動

	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()

【支援シート】

年度

月

対象児:

(男・女) / (

y

m)

*取り組む行動		行動の種類 ・増 ・減
行動の理由		
*増やしたい行動(困った行動に代わる望ましい行動)		
<p>今月の支援内容</p> <p>※支援の実施状況</p> <p>4.行った</p> <p>3.ほぼ行った</p> <p>2.あまり行えなかった</p> <p>1.行えなかった</p>		
*取り組む行動	非常に改善した 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 全く改善しなかった	
*増やしたい行動	非常に改善した 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 全く改善しなかった	
支援の変更・修正	必要あり 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 必要なし(現在の支援を継続)	
支援の振り返り(子どもの行動の変化等)と今後の支援		

事 例 編

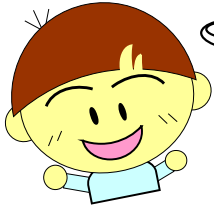
事例 1

チャレンジ 1

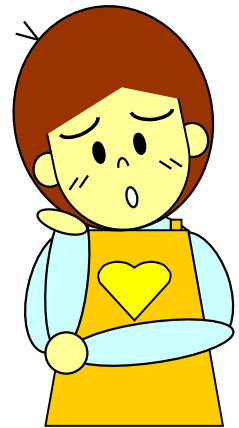
取り組む行動を決める！

Eくん
5歳5ヶ月

- ちょっと気になることは…
- ・何でも一番でないと泣いてできなくなる。
 - ・見られたり、身体がふれただけで、たたく、押す、つねる。
 - ・食事の好き嫌が多い。
 - ・寝起きが悪い。
 - ・無理にギャフをする。



- ほくのできていることは…
- 機嫌がいいときは
- ・好きな友達と2人組で手をつないだりペアで遊ぶことができる。
 - ・ルールのある遊びもルールを理解して遊ぶことができる。
 - ・少しがまんできるようになった。



一番気になることは…

E君は「何でも一番でないと泣いてできなくなる」こと。
どうすれば、泣かずに我慢できるようになるかしら…。



チャレンジ 2

行動のABCを観察し、記録する！

ある日のEくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Eくん 担任:S先生 パート:T先生】

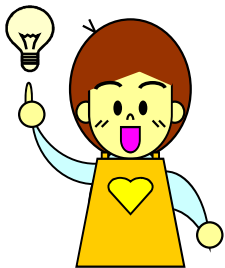
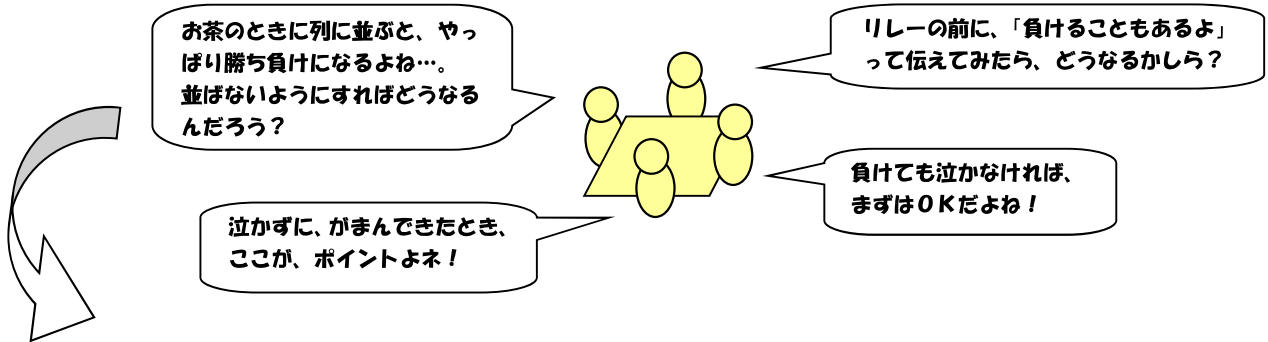
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・朝・入室後お茶を飲む] いつもより遅い登所(9:40) 他児:お茶をいれてもらうために先生の前に並んでいる	お茶をいれてもらうために順番に並ぶが「1番がいい!」と言って部屋を出て行く(いつものクールダウンの場所)	S先生:少し間をおいて、本児を迎えに行く。
[教室・午前・設定保育] 6人組で3チーム対抗のリレーが始まる リレーをし、負けて3位になる。 "	「負けたくなかった。1番がよかった」とその場を離れ隣の部屋(3才児室)で泣く。 「負けるもん…」といいながらも部屋へ戻る。	T先生:「負けても次のゲームで勝ったらいいねん」
2回目のリレーをし、また負ける。 "	「また負けた」隣の部屋で泣く。 チームの友だちと部屋へもどる。	T先生と同じチームの友だちで迎えに行く。 T先生:「負けてくやしいのはこの子達もいっしょ、Eくんだけじゃないよ」



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。



こんな支援(かかわり)をしてみることにしました！！

- ・お茶をもらうときは、順番に並ぶのではなく、机の自分の席に座って待つ。お茶は先生が、机をまわって入れる。
- ・泣かずに待つことができたなら、好きな先生の前で、ごほうびカードに自分で○をつける。
- ・ゲームや競争のときは、事前に負けることもあることを予告し、負けても泣かずにいられたら、そのことをほめる。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のEくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Eくん 担任：S先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・夕方・自由遊び] Eくん対主任でスゴロクをする。 主任：主任が優勢になってきたところで「先生かちそうやけど、Eくん負けたら泣くんとかがう？」と事前に言う。	スゴロクに負けるが、ガマンして泣かなかった。	主任：「Eくんすごいね！ガマンできたね！先生びっくりしたわ。すごい！すごい！」
[教室・夕方・自由遊び] S先生対Eくんでスゴロクをする。 S先生：Eくんに勝つ。 主任：「この間Eくん負けても泣かんかったよ」	負けて残念！という顔をしたが、ガマンできた。	主任：「ほ～らね。すごいでしょ」 S先生：「ほんとやEくんえらいね」

かかわり方をかえると、こんな場面が見られました！！

お茶のとき…自分の席で待つと、順番が気にならないのか、「一番がいい」と言わなくなった。

ゲーム、競争のとき…負けそうなときに事前に予告しておく、がまんできるようになった。

二番もOK…ということが少しずつ分かってきた。



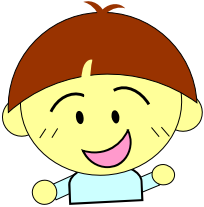
事例2

チャレンジ 1

取り組む行動を決める！

Fくん

3歳10ヶ月



ちょっと気になることは…

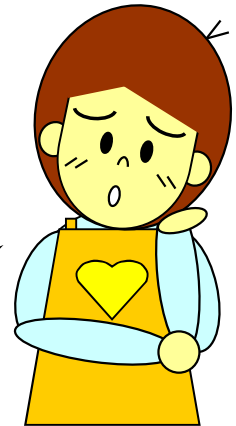
- ・部屋から飛び出し、素足で戸外や他の部屋へ行く。
- ・0歳児を見ると力まかせに押したり叩いたりする。
- ・生活リズムが整いにくく、日々、コンディションに波があり、自分の思いが通じにくいときは拒絶する場合がある。
- ・集団への関心は薄く、友達とのかかわりも好まず、対大人との関係が続いている。

ほくのできていることは…

- ・排尿感覚は一定していないが昼寝起きには男児便器で排泄ができる。
- ・気分が和やかなときは、衣服の着脱や靴、靴下等の着脱が一人でできる。
- ・食事の準備、片付けができる。

一番気になることは…

F君が「部屋から飛び出し、園庭や他の部屋へ行く」こと。
部屋から飛び出さずに過ごすために、何か支援はできないかしら…。



チャレンジ 2

行動のABCを観察し、記録する！

ある日のFくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Fくん パート:U先生】

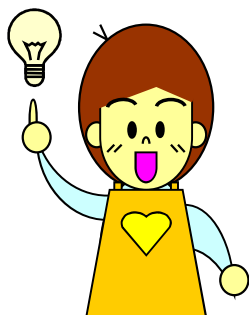
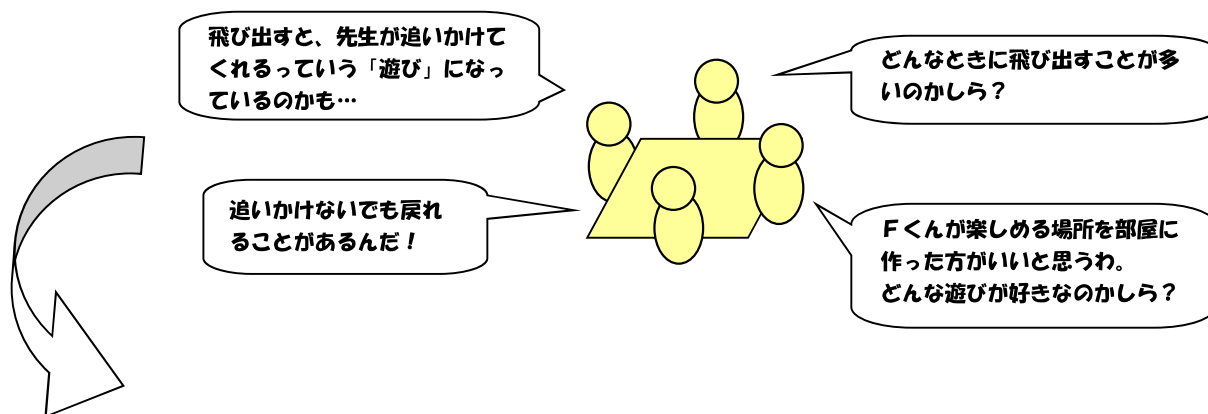
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・給食後] U先生:「Fくんパジャマに着替えよか？」 "	部屋を飛び出し、0歳児室前まで行く。 笑顔で逃げる。	U先生:「Fくん帰っておいで！」と言って、追いかける。
[教室・給食後] U先生:他の用事をしている。 "	部屋を飛び出し0歳児室前まで行く。 少しすると笑いながら戻ってくる。 嬉しそうに笑う。	U先生:「Fくん、先生待ってるから帰って来てね」と見守る。 U先生:「Fくん、おかえり」と言い、戻ってきたことをほめる。



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法（かかわり方）を考えました。



こんな支援（かかわり）をしてみることになりました！！

- ・保育会議で本児の行動について伝え、0歳～2歳児担当の支援協力を依頼する。
- ・3歳児保育室のダンスを室外に出し本児のコーナーを作る。
- ・本児の好きな遊びを集め、落ちついて（集中して）遊べるおもちゃ等を探る。
- ・室外へ出て行った後は追いかけず戻って来るまで待ち、戻って来たときにはほめる。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

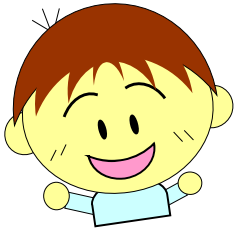
かかわり方をかえると、こんな場面が見られました！！

- ・好んで入室していた0歳児室での受け入れを歓迎方式から、あまりかまわず放置する、又は、室外へ促すと短時間で出て行き自室へ戻ってくることができた。
- ・担当保育士が他の仕事をするときには、本児が落ちつくコーナーへ誘い、好きな遊びを揃えると集中して遊ぶ時間が増えてきた。



取り組む行動を決める！

Gくん
5歳2ヶ月

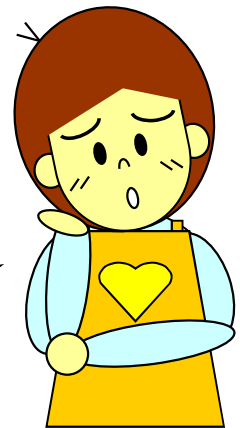


ちょっと気になることは…

- ・設定保育中…保育士が全体に話しているとき、大声で何か言ったり、いすの背もたれに座ったりする。みんながうたっているとき、ウロウロする。
- ・食事中…いすにきちんと座れない。手づかみで食べる。汁を手のひらにうつして飲む。わかめなど机や自分の手にはりついたりする。
- ・午睡時…なかなか寝ない。大きな声を出す。
- ・自由遊び…やりたい遊びがみつからず、ウロウロするか、三段ボックスの上で寝転んだりする。自分より弱そうな女児にちょっかいをかける。
- ・一日を通してよく聞かれる言葉…バカ、ジジイ、来るな！！、あそんだらへん、ボケ、ウルサイ…など、暴言を言う。

ほくのできていることは…

- ・身のまわりのことは、側で促すとできる。



一番気になることは…

「一日に何度も暴言(バカ、ジジイ、ボケなど)を言う」こと。

バカ、ジジイ、ボケって言わないようになってほしいけど…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のGくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Gくん 担任:W先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
【調理室・朝・自由遊び】 他児:園庭で遊んでいる	特に何をして遊ぶでもなく、ウロウロしている。 ↓ 調理室をのぞきに行き、ドアをあけて「ボケー」と言う。	W先生:「『ぼけ』じゃないよ!!『おはよう』っていうねん」
←	無言で走って逃げて、遠くから様子をうかがっている。 すきを見ては、調理室に行き「ボケ、じじい」と言う。	調理士:「ボケですよー」と笑って言う。
←	何も言わずに走っていく。	

チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。

「ボケー」が、コミュニケーション
になっているのかも？

何をしたいか分からない
ときのメッセージかも…

場面をしぼって、少しずつその場にあった言葉
を教えてあげられるといいよね。毎日、調理
室で「ボケー」っていうなら、まずは、そ
こでのあいさつからでもいいよね。

言うべき言葉の見本があったり、側で教
えてくれる人がいるといいんじゃない。

こんな支援(かかわり)をしてみることにしました！！

- ・毎朝、主任又は、担任と一緒に調理室にあいさつに行く。
- ・担任、パート保育士、主任から、毎朝「おはよう」と声をかける。
- ・パート保育士が見守り、本児が困ったとき、援助が必要なときに、しっかりと話をきき、援助する。
- ・対人関係の中で必要な言葉やあいさつなど簡潔に本児に伝える。

チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のGくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Gくん 担任：W先生 パート：Y先生、S先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔教室・午睡時〕	なかなか寝つけず、Y先生、S先生に「アホー、ボケー、あそんだらへん」とくり返し、叩きに行く。	Y先生：真剣な顔で怒る。
〃	Y先生を力まかせに何度も叩き止めない。	W先生：一度外へ出しあやまるように話す。
〃	W先生と一緒に促されて「返してください(タオル)」「ごめんね」と言う。	W先生：「そうやね(あやまったことを認める)。Y先生に用があるときは『アホ、ボケ』じゃないよ。『Y先生』ってポンポンするの」とGの手を持って「Y先生」と言いながらYの肩と一緒にポンポンすることを繰り返す。
〃	W先生に手を持たれて、Y先生の肩をポンポンする。	Y先生：「はあーい。なあーに？」と返事をする(肩を叩くたびに繰り返す)。
午睡後	「Y先生」「Y先生」と何度も言う。	Y先生：「はあーい。なあーに？」と返事をする。
〃	「おしっこー」と要求を伝える。	Y先生：「トイレやね！！行っておいで」と返す。

かかわり方を変えると、こんな場面が見られました！！

- ・調理室でバカ、ジジイなどと言わずにあいさつができるようになり、最近では「今日のご飯何？」と聞くようになった。
- ・バカ、ジジイなどの暴言は、大幅に少なくなった(一日に1~2回、言わない日もある)。
- ・パート保育士に対して本児から要求などを(短い言葉ではあるが)伝えるようになった。
…「○○せんせ、おしっこ」「ママ来た。さようなら」
- ・他児に対して大きな声で「よして」と言って、遊びの輪の中に入ろうとする。
…同じ遊具を使った並行遊びである。
- ・設定保育、特にリズム遊びで、みんなの中に入って一緒にしようとするときもある。



取り組む行動を決める！

Hちゃん
5歳7ヶ月

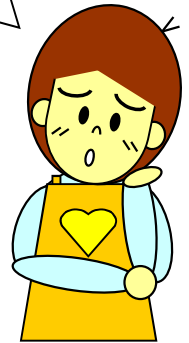


ちょっと気になることは…

- ・日常生活の流れの中で、イレギュラーな活動が入ったり、突発的な出来事が生じた際に動揺し、活動が上手く行えなくなる（設定内容が変化することには支障はない）。
- ・自由に形を描いたり、貼りつけたりする課題に対して、形を決められなかったり、場所をなかなか決められない（但し、色を自由に選ぶことはできる。好きな色が水色で、よく選んでいる）。
- ・給食の配膳の際、配られた品数（食器）が多くなると、自分が配ろうとしている種類のものを、どこへ配れば良いのか分かりにくくなる。

わたしのできていることは…

- ・日常における基本的な生活習慣については、自立できている。



一番気になることは…

「日常生活の流れの中で、イレギュラーな活動が入ったり、突発的な出来事が生じた際に動揺し、活動が止まってしまう」こと。

困ったり、動揺したときに自分から伝えられるようになってほしいけど…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のHちゃんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Hちゃん 担任:T先生 主任:U先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
【教室・午睡前の着替え】 T先生:(全員に向けて)「今日はコップを洗ったら自分でいつも先生が片付けているあの棚に片付けてください。」	コップを洗い終わった。 コップを持って机と棚の間を行ったり来たりしている。	U先生:「Hちゃん、何か困ってる？」
"	「え〜っと…」(動きを止め沈黙)	U先生:「コップをどうにかするの？」
"	「うん。でも…。」(困った表情をする)	U先生:「T先生に、聞いてみたら？」
"	T先生に「これ(コップ)どうしたらいいですか？」	T先生:「あそこの棚、いつも片付けてる棚に自分で片付けてね。」
"	棚に近づき、恐る恐るコップを入れる。	T先生:「O.K!! また、ここ(棚)、覚えててね。」

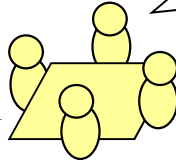


記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。

困ったときに自分から言葉で伝えるのは難しいみたいね。

個別の指示があれば、新しいことでもできているのは、いいことよね！



例えば…、言葉以外にも、Hちゃんが困ったことを知らせるサインを決めたらどうかしら？

最初は、サインを出してくれたら、すぐに対応してあげないといけないから、いろんな先生が協力してくれるといいよね。

こんな支援(かかわり)をしてみることにしました！！

- ・対象児Hと、サインの出し方について話し合う。
⇒困ったことがあれば、遠慮なく先生に言っいいことと、言葉で言えるなら言葉で、難しければ「サイン」で伝えてみないかと提案したところ、嬉しそうに了承する。「手を振りたい」と本児からの申し出があったが、挨拶との区別がつきにくいと指摘すると、「じゃあ別の手を振りたい」とのことであった。ピース(チョキ)で振ることを提案すると快諾する(「ホッとしたり」と2回言う)。
- ・全職員共通理解のもと、Hのサインを受け入れることにする。
- ・「サインをする」ということそのものに抵抗感を抱かないよう、サインを受けとめた際には、「Hからのサインのお陰で、すぐにHの困っていることについて分かることができた。良かった。」とのメッセージを伝える。



支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のHちゃんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Hちゃん 主任:U先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
【教室・午睡前の準備】 活動:パジャマに着替える際に、自分で、個人持ちタオル(事前に保育士が湯で絞ったもの)を使って、足を拭くことになっている。今の時期(夏期)は、汗の始末のこともあり、足を拭く前に体を拭くことになっている。	着替え終って絵本を読んでいる。 突然、慌てて立ち上がり、自分の鞆から、(洗濯物として片付けていた)体拭き用のタオルを取りだし、手に持って、ウロウロと歩き回る。	U先生:Hの様子に気付き、少しの間、様子を見守る。
" ←	U先生と目が合い、サイン(ピースサインを振る)を出す。	U先生:「Hちゃん、困っているのサインやね。どうかした？」
" ←	「今日、足だけじゃなくて、体も拭く日だったのを忘れたの。」	U先生:「そうやったんや。よく気が付いたやん。Hちゃんのタオル(指でタオルを指しながら)は、足を拭いて汚れているから、先生が新しいタオルを持って来てあげるから、Hちゃんのタオルを片付けて待っててね。」
" ←	「うん。」と言って、タオルを鞆に片付けに行く。	U先生:新しいタオルを「はい。新しいタオル持って来たよ。どうぞ。」と手渡す。
" ←	体を拭き、着替えを済ませ、タオルを返しに来る。「タオル、ありがとうございます。」	U先生:「はい、どういたしまして。今日、サインを出してくれたから先生、Hちゃんの困っていることがすぐに分かって良かったわ。」

- ・サインを初めて示したときは、サインを提示することに少なからず緊張したようであった。しかし、2回目以降からは、抵抗感なくサインを示すようになり、度々、「ホッとしたり」と言った。
- ・その後、サインなしでも、困ったことについて、申し出ることが徐々に増えてきた。2週間程過ぎた頃に、Hより「こうやって(ピースを振る)しなくても、困ったことが言えた」との報告があった。「良かったわ」と言うと、笑顔を見せていた。

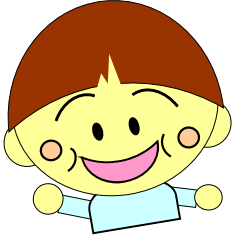


取り組む行動を決める！

Iくん
4歳9ヶ月

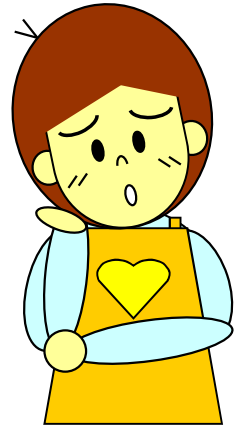
ちょっと気になることは…

- ・順番が待てない。
- ・落ちついて話が聞けない。
- ・すぐに暴力をふるってしまう（叩く、蹴る、物を投げるなど）。
- ・こだわりが強い。
- ・指示で動けないことが多い。



ほくのできていることは…

- ・集団遊びに入って遊ぼうとする。
- ・毎日の決められた生活リズムの中で身のまわりのことが自分でできる。
- ・保育士が側についていれば、いろいろな課題に取り組むことができる。



一番気になることは…

「すぐに暴力をふるってしまう

（叩く、蹴る、物を投げるなど）」こと。

叩いたり、蹴ったりせずに過ごしてほしいけど…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のIくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Iくん 担任:W先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・夕方・自由遊び] ・ゲーム遊び(すごろく) ・自分がしたくてゲームを始め、人数が増えてきた(6名) ゲームが始まる	色決めは待てた。 ゲームが始まるとサイコロが早くふりたくて、順番が待てず、友だちのサイコロを取ろうとする。	(対応なし) W先生:順番が違うことを伝える。
[教室・夕方・自由遊び] ・ゲーム遊び(すごろく) ・他児:1番でゴールする。 " ←	みんなのコマを全てスタートに戻す。 他児に頭突きをする。	他児:注意する。 W先生:Iくんを止めて、「他の友だちも最後まで行きたかったんよ」と話す。



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

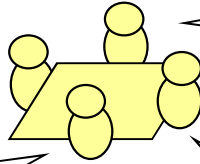
支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。

待つことが苦手みたい。
待つ時間が短くなるような工夫はできないかしら…。

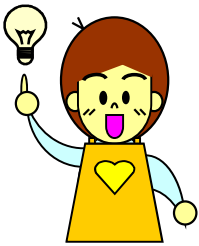
手が出る場面って、なんだか予測できそうよね。いつもなら手が出る場面で我慢できたら、そのことをほめたらどうかしら。

少人数なら、待ち時間が少なくなるんじゃない！

どれくらいの人数なら、待てるんだろう？



こんな支援(かかわり)をしてみることにしました！！
 ・小さな成功や頑張りをみつけてほめる回数を増やしていく。
 ・待つことが苦手なので、長く待つことがないよう、遊びの集団を小さくするように気をつけ(4人まで)、見通しがもてるようにする



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のIくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Iくん 担任:W先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・朝・うがい] W先生:Mちゃんに注意する。 Mちゃん:「ごめんなさい」と言ってやめる。 W先生:「ちゃんとあやまれてすぐやめてえらいね」とMちゃんをほめる。 "	うがい後、コップをタオルかけにガンガンぶつけないが歩いている。 「ごめんなさい」と言ってコップをぶつけるのをやめる。 にこにこしながら席に戻る。	W先生:やめるように言う。 Mちゃん:本児のマネをする。 W先生:「Iくんもちゃんとあやまれて、えらかったね」とほめる。
[教室・午前中・着替え] 他児:フラフラ動いている本児に「じゃま」と言う。 "	「じゃま」と言われたことに腹立ち、他児をたたく。 自分のロッカーに戻り着替えをはじめ。 「できた！」と言って来る。 嬉しそうに笑顔になる。(この後、時々遅くなることもあるが、声をかけていると素直に指示をきく。)	W先生:本児と他児の間に入り、「Iくんのロッカーはどこやったかな？」と言う。 W先生「すごい！早く出来たねー！」と大げさにほめる。

かかわり方を変えると、こんな場面が見られました！！
 ・小さなことでもほめることで、本児は自分が認められていることが嬉しく、努力しようとする姿が見られた。
 ・～したらこうなる等の見通しを本児が理解できるように伝えてやることによって、安心し、納得して、問題行動(待てない、たたく、ウロウロするなど)が少なくなった。

・友達をたたいてしまう前にその手を止めるというのは、ある程度予想できるのだが瞬発的で難しかった。

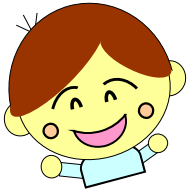


取り組む行動を決める！

Jくん
5歳9ヶ月

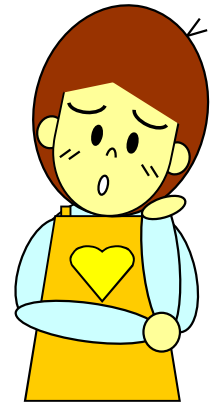
ちょっと気になることは…

- ・身体をじっとしていられない。話を聞くとときも、手、足が動く。
- ・身の回りのことが集中してできない。
→ どんな声かけをしたらいいのかパートの先生も悩んでいる。ほめてばかりでも、せかしてばかりでも。
- ・友達にやめて！と言われてもやめられない。



ほくのできていることは…

- ・声をかけてもらおうと身の回りのことができる。
- ・友達といることを好むようになった（4才児の時はほとんど関心なく一人で遊ぶことが多かった）。
- ・積木遊びが好きで集中してよく遊ぶ。友達が寄ってきて一緒に遊んでも遊べるようになった。
- ・喜んで毎日保育所に登所してくる。



一番気になることは…

「身の回りのことが集中してできない」こと。

落ち着いて過ごせばもっとできることが増えそうなのに…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のJくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Jくん 担任：Y先生 パート：S先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
【教室・給食】 くきっかけは分からない	保育士の表情をうかがいながら足をドタバトと鳴らす。 ↓ 足を鳴らすのをやめる。 (この後も、集中力のとぎれた頃に、足をドタバタ鳴らすのをくり返す)	Y先生：反応しない(声をかけない、目を合わさない)。
【教室・給食後】 コップ、おはしの片付けのとき	なかなか片付けせずにバタバタとどきはねる。	S先生：「次にお布団ひくにはどうしたらいい」
〃 ←	「早く片付ける」と言いながら、足をバタバタと早くする。	S先生：「足バタバタしても早くならないよ」
〃 ←	やめておはし、コップを片付ける。	

チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法（かかわり方）を考えました。

全体指示より、個別指示の方が理解しやすいんじゃないかしら？

先生に声かけしてもらって出来てもOKだよ。

「足をバタバタさせる」行動をやめたときに、「バッチリだよ！」みたいな声かけがあった方がいいんじゃない。

出来てることが結構あるように見えるけど…。

こんな支援（かかわり）を試みることにしました！！

- ・本児がきちんとやるべきことをできたときに、たとえ声かけの援助があったとしても「できたね」「早かったね」「えらいね」などほめる、認める声かけをする。
- ・食事時のバタ足をやめたときには「やめれたやん！」とできたことをほめる。ちゃんとできている自分を意識させる。
- ・本児の側について声をかけるようにする。

チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のJくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Jくん 担任：Y先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔教室・午前・プールの準備〕 （本児は朝からプールに入るのを楽しみにしている。） 他児：クラスで集まって座っている。 "	なかなか座らない。（気づいていないのかもしれない） ← 座る。	Y先生：「プールが始まるよ。座ろう」とJに個別に指示する。 Y先生：「一回しか言ってないのによく聞こえてたね。プールのときに大事なこともんあ」
〔教室・給食〕 "	足をきちんとつけて食べている。 ← 「昨日いちばんに食べてんで」	Y先生：「うわーちゃんと足が下についているやん」
"	← しばらく良い姿勢で食事をする。	Y先生：「背中がのびて座っているからとちがう」

かかわり方をかえると、こんな場面が見られました！！

- ・職員が意識して声かけをするようになった。
- ・本児が落ち着いてきた。食事時の足バタバタも減ってきている。



工夫 紹介

【 教室内の工夫 】

工夫 1

「ロッカーの上に登る」という行動に対する取り組みです。
ロッカーを登りにくくするために、布でおおってみました。
布でおおってから、ロッカーに登ることがなくなりました。



工夫 2



「棚の上に登る」という行動に対する取り組みです。
棚の上が登ってはいけない場所であることを示すために、紙で作った花（落ちてあぶなくないもの）を置いてみました。
花を置いてからは棚の上に登ることはなくなりました。

工夫 3

「部屋から出てベランダからおもちゃを投げる」という行動に対する取り組みです。
本児が落ち着いて遊べるコーナー（ままごとコーナー）を作りました。コーナーでは、他児が周りにおいても不安定にならずに遊べるようになり、ベランダに出てものを投げることも減ってきました。



【 教室内の工夫 】

工夫 4



「友達とかかわって遊ぶ」という行動に対する取り組みです。

友達と遊べず、教室をうろうろしながら、片付けてあるおもちゃ等を落としていました。代替りの遊びとして、タオルで作ったトイレットペーパーを教室に用意するとこれを引っ張って遊ぶようになりました。また、出しきったタオルを他児が巻きなおすので、今では、友達と一緒にできる遊びになっています。

工夫 5



水道で順番が守れるように、並ぶ位置を視覚的に示しました。



【 望ましい行動を増やす行動の後の工夫 】

日常の活動への参加を促すために、できた活動の欄に○をつけて、できたことをほめる取り組みをしました。対象児が自分で○をつけたいと言ったので、途中からは園児自身が○をつけました。

工夫 6

1月7日 (2020)

あそびじかん	○	あそびじかん あそびました。
きょうしつ	⊗	きょうしつ かとうしました。
おひるね	○	
きろえ	○	
あやと かえりのあそび	🌀	
きとあそびの かたづけ	○	
タイヤとシート	○	

かざつ	にち	
あそびのようい	🍵 🍷	
あそび		
きょうしつ	🍲 🍴 🍽️	
おひるね	👤	
おやつと かえりのあそび	🍵 🍷 🍴	
あそび		
かたづけ	🚗 🍷 🍴	
すなばのタイヤ	🍷	

工夫 7



「『キー』と大声を出し、大泣きする」という行動に対する取り組みです。
「キー」と言わなかったら、カレンダーにシールを貼りました。取り組みを始めると「キー」と言うことが減ってきました。また、言わなかった日は自分からそのことを伝えに来てくれます。

【 スケジュールの工夫・絵カード 】

見通しが持てるように、1日の活動をスケジュールで示しました。

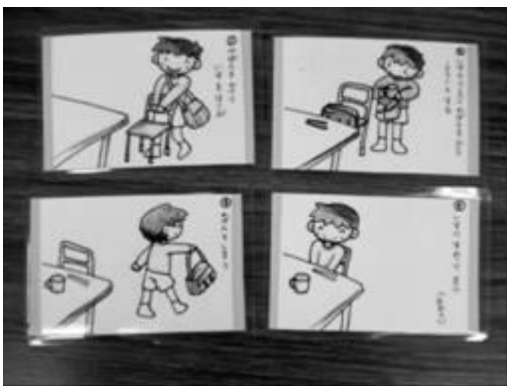
工夫 8



工夫 9

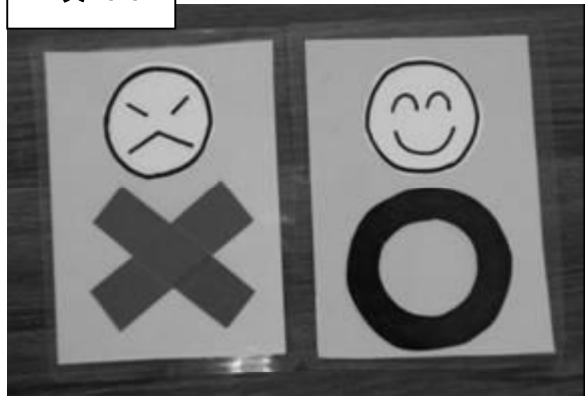


工夫 10



「してはいけないときに、水道で遊ぶ」という行動に対する取り組みです。水道にカードを提示する場所を作り、水を出していいときと、いけないときを「O」「×」カードで示しました。「×」のときは水道の栓を触らなくなりました。⇒「×」だけでなく「O」のカードがあるのがいいですね♪

工夫 11



あとがき

「神戸市発達障害ネットワーク推進室」は、発達障害者支援法の施行（平成 17 年 4 月 1 日）にともない、準備期間を経て平成 19 年 10 月 1 日に開設されました。

「発達支援のためのチャレンジブック！」は、平成 19 年度から始まった「発達支援リーダー養成研修」の体験にもとづき作成されました。保育士の先生方がどのようにして、発達の気になる一人ひとりの園児に対応すればよいのか、というテーマのもとに、実践的な工夫を満載したガイドブックです。研修会に参加された保育士の先生は 100 名近くになります。チャレンジブックで明らかにされている支援の考え方が今後ますます地域に普及することが期待されます。

チャレンジブックの要は、行動の A B C 観察法です。B が行動です。A と C は行動の前後に見られる状況を指します。B の行動が、お絵描きの課題中に大声をあげて園児が部屋から出ていく、としましょう。このような行動の回数が少なくなり、園児が部屋でお絵描きができるようにするには、どうすればよいでしょうか。どのような状況で、どのような困った行動がみられ、そして困った行動の結果がどうなっているのかを、注意深く観察することにより、支援への有効なヒントが生まれます。チャレンジブックには園児の困った行動の A B C 分析が具体的に出ています。A B C 観察法を身につけておくことで、さまざまな状況において、保育現場で園児のニーズにそって支援ができます。

チャレンジブックにより支援者がエンパワーされることは、積極的にできることがたくさんあること、そしてその方法が明確であることだと思います。適切な行動を伸ばし、困った行動に対応する手立てがあるということです。日常保育における園児の行動の捉え方がチャレンジブックに段階的に説明されています。多数の保育士さんたちの声が反映されているため、事例も身近なものが多く、A B C 観察法が実際に使われたことを物語っています。現在、A B C 観察法を応用した発達支援は海外でも広く実施されていますが、その効果が世界の文献で実証されていることも付け加えておきたいと思います。

発達支援は、毎日の具体的な保育養育活動から始まります。一人でも多くの子どもが自分にできることが増え、先生方と子どもとのポジティブな交流が増えるようにチャレンジブックをお手元においていただくことを願っております。

関西学院大学文学部総合心理科学科教授
松見淳子

